



2019 年度 立命館大学大学院 経営学研究科

教員紹介



大学院でいっしょに、 自らの学習・研究スタイルを確立しよう



経営学研究科長 小久保 みどり

みなさんも良く知っているように、知識基盤社会を迎え、知識やアイデアによる「知の生産性」が飛躍的に高まっています。そのため、研究者の道を歩む人にとってはもちろんのこと、社会に出て企業や公共企業体で活躍する人にとっても、4年間の学部での学びでは、足らない時代がやって来ている。

みなさんの中には、大学院とは、将来、学者になって大学で職を得たり、研究機関で働いたりする人だけが行くところ、といった錯覚を持っていないでしょうか。もちろん大学院は、そうした人たちの勉強の場でもあります。それだけではありません。例えば、社会に出る前に、じっくり考える時間を持てたい、もう一度自分の学びを深めたい、と考えている人はいないでしょうか。知識基盤社会とは、生涯、継続して学び研究し続ける姿勢なくしては、活躍が保証されない社会です。また、こうした学習・研究スタイルを身に付けてから社会に出るのとそうでないのとでは、将来の成長の度合いが違ってきます。それぞれの専門領域を極めることで、物事を深く考える姿勢、視野を大きくとる姿勢を身につけること、これこそが、大学院で学ぶ意味なのです。

そして、何よりも大切なことは、指導してくれる教員や仲間たちといっしょになって、将来、自分が何をしたいのか、何を極めたいのか、それについてじっくり考える時間と機会を持てることです。少人数で教員の指導を受け、また、仲間たちと時間を忘れて議論をする、そしてそれを論文にまとめる、こうした学習機会こそ、大学院で学ぶ意味なのです。

本冊子は、そうした研究指導を行い、またみなさんの良き相談相手ともなるであろう、経営学研究科の教員のみなさんのプロフィールです。先生方がこれまで研究してこられたこと、日々考えておられることなどが、ここに書かれています。その中には、あなたが「さらに深めたい、もう一度学び直してみたい」世界が見つかるかもしれません。

さあ、経営学研究科に入学して、自らの学習・研究スタイルを確立してみませんか。

お待ちしております。



氏名・職位			研究テーマ一覧	掲載ページ
東 健 太 郎	教授		社会・環境問題やCSRがディスクロージャーに与える影響	1
池 田 伸	教授		ビジネスモデル研究、とくに小売業態・クリエイティブ産業に関する研究、企業統計の成立・利用に関する研究	2
石 川 亮 太	教授		経済史・経営史	3
猪 口 真 大	教授		新興国・途上国における金融システムおよび国際資本移動に関する実証分析	4
大 浦 啓 輔	教授		コストマネジメントおよび業績管理システムについての実証的研究	5
金 森 絵 里	教授		エネルギー事業の会計、イギリスの会計史	6
菊 盛 真 衣	准教授		マーケティング、消費者行動論 ・クチコミと社会的相互作用 ・オンラインクチコミの効果	7
木 下 明 浩	教授		ブランド・マーケティング、小売マーケティング	8
金 昌 柱	教授		小売戦略、国際マーケティング、営業管理	9
桐 畑 哲 也	教授		アントレプレナーシップ、アントレプレナーファイナンス、知的財産マネジメントの研究	10
黒 木 正 樹	教授		アントレプレナーシップ、ベンチャー企業論、アントレプレナーシップ教育	11
小久保 みどり	教授		リーダーシップとワークモチベーション、緊急事態へ対応する組織、非正規従業員の雇用環境と働き方、若者のキャリア開発	12
小 島 愛	教授		非営利組織のマネジメント	13
小 林 磨 美	教授		金融システムと企業行動のミクロ経済学的理論分析	14
近 藤 宏 一	教授		サービス・マネジメント理論の多様な分野への応用－交通システム、文化・芸術、まちづくりを中心に	15
齋 藤 雅 通	教授		流通・マーケティングの国際比較	16
佐 藤 典 司	教授		デザインマネジメントおよび知識・情報価値	17
佐 野 宏 樹	准教授		・半導体企業の技術共有の問題に関する研究 ・小売・製造企業の在庫回転率に関する実証研究 ・ブログ記事をもとにした観光サービス・オペレーションに関する研究	18
瀧 博	教授		コーポレートガバナンスと公認会計士監査	19
田 中 力	教授		地域統計分析の方法に関する研究	20
田 中 幹 大	教授		ものづくり中小企業の技術提案戦略に関する研究	21
谷 川 智 彦	准教授		職場におけるダイバーシティとパフォーマンスとの関係性、トップ・マネジメント・チームの構成が企業戦略及び企業業績に対して与える影響	22
種子田 穰 (後期課程のみ)	教授		プロスポーツビジネスを中心としたスポーツビジネスのケーススタディーによるビジネスモデル研究	23
徳 田 昭 雄	教授		企業システム、産業システム、経営戦略の研究	24
中 村 志 保	准教授		日本企業の国際人的資源管理	25
中 村 真 悟	准教授		各国の産業技術競争力に関する研究、静脈産業の技術と経営に関する研究	26
西 谷 順 平	教授		会計基準の経済分析	27

氏名・職位			研究テーマ一覧	掲載 ページ
播磨谷	浩三	教授	金融機関・金融市場を対象とした実証分析、産業政策の効果に関する実証分析	28
堀井	悟志	教授	戦略経営における管理会計制度の構築	29
松浦	総一	准教授	利益操作・税務計画に関する実証的研究	30
三谷	英貴	教授	資本市場とコーポレート・ファイナンスとの間に存在する動態関係の実証的解明	31
宮田	幸子	准教授	新興国のビジネス・経済活動の実証研究、マイクロデータによる開発ミクロ経済分析	32
守政	毅	教授	華人企業の経営戦略に関する実証研究	33
森祐	介	准教授	企業の境界問題、情報探索・共有と組織内・組織間距離についての理論分析	34
守屋	貴司	教授	外国人留学生・従業員のキャリア形成に関する研究、組織開発・組織文化づくりによる地域活性化に関する研究、日本企業の人的資源管理と労使関係に関する研究	35
八重樫	文	教授	メディアデザイン、デザイン・ドリブン・イノベーション、デザインマネジメントに関する研究	36
山崎	文徳	教授	製造業における市場競争と技術革新に関する研究	37
吉田	満梨	准教授	マーケティング行動と製品市場動態に関する研究	38
依田	祐一	准教授	顧客価値を創造するビジネスシステムとそれを支える情報システムのマネジメントに係る研究	39
RAUPACH SUMIYA JORG		教授	再生可能エネルギーと地域経済	40
SCHLUNZE ROLF DIETER		教授	異文化経営とダイバーシティ・マネジメントの研究	41



東 健太郎

Kentaro AZUMA

職位 准教授

学位 博士、経営経済学マンハイム大学 (ドイツ)

教員の自己紹介

私が大学院生だったときは、ドイツ語の文献を読んでいました。ドイツに留学していた4年間をあわせると、自分の主たる外国語がドイツ語だった期間は10年ほどになるでしょうか。最近の研究でドイツ語を使うことはあまりありませんが、ドイツ語を使った研究に一生懸命取り組んだことは、非常に大切な経験です。一見すると、直接的な役立ちが少なく思えることほど、長い目で見たときには、とても大事な経験となるものだと思います。

1. 主要な研究テーマ

- 1) 社会・環境ディスクリージャーの動機と資本市場への影響
- 2) CSR やコーポレート・フィランソロピーなど、「企業と社会」にかかわるテーマ

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

最近では、定量的な実証研究に興味をもっています。

以下の論文を参照してください。

http://r-cube.ritsumei.ac.jp/bitstream/10367/6501/2/be54_03.pdf

また現在は、「社会・環境情報が資本市場に与える影響」というテーマで、科研プロジェクトを実施しています。

3. この研究のここが面白い！

形式的にみれば、企業は、(貨幣的な)利益を追求しなければいけない組織です。なので、企業は利益にならないことをするべきではないはずですし、社会もまた、企業に対して、利益追求以外のことを期待するのは筋違いなのかもしれません。しかし、現実にはどうかというと、企業は一見すると、利益には関係のなさそうな、社会や環境に関する言説や情報を大量にディスクリーズしているのが現状です。そういった情報開示の動機は、いったいどこにあるのでしょうか？

しかも最近では、SRI や ESG など、利益に関係のない(かもしれない)情報を、投資家の意思決定に反映させようとする議論、さらには利益に関する情報と「統合」して報告しようとする議論まで存在します。そんなことは可能なのでしょうか？

社会や環境にかかわる領域は、新しいようで古くから存在し、「ハテナ」の多い分野です。斬新なアイデアで「ハテナ」に迫ることができるのが、この領域の研究をする魅力です。

4. WEB ページなど

私の略歴については、以下のホームページをみてください。

<http://research-db.ritsumei.ac.jp/Profiles/74/0007301/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

所属学会は、日本社会関連会計学会、環境経営学会など。

6. 求める院生像

研究テーマに興味があれば、どなたでも歓迎します。

英語論文を読んだり、統計的な数値をみたりすることに興味がある方であれば、さらに歓迎です。

池田 伸

Shin IKEDA

職位 教授
学位 修士（経済学）



教員の自己紹介

さまざまなコンテンツはクリエイティブ産業・メディアの前提です。研究そのものではありませんが、私的比較文学的？な英文学史の展示を OIC 図書館で行っています。アーサー王から沙翁、オースティンから漱石まで、関心あればのぞいてみてください。なので文豪風にしてみました。

1. 主要な研究テーマ

- 1) ビジネスモデルとそのデジタル化による変容についての理論
- 2) その適用：おもにクリエイティブ産業、小売業・ショッピングセンター、プラットフォーマー
- 3) 関連して「法と経営学」の探求

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

池田伸. (2016). クリエイティブ産業におけるビジネスモデル:系譜論的接近 (三浦一郎教授退任記念論文集). 立命館経営学, 54(4), 41-63.

池田伸. (2017). ビジネスモデルの理論の発展とその周辺. 立命館経営学, 55(6), 55-73.

3. この研究のここが面白い！

同じ産業に属する企業は、その商売の仕組みがある程度収束するような態様があり実体的な比較可能性があるのでないか。このようなことをビジネスモデルという概念で考えています。たとえば製造業と比較して、クリエイティブ産業はどのような特徴があるといえるのか、小売業態はなぜ多様にあるのか。

他方、デジタル化によって従前のアナログ型のビジネスモデルがまったく変わってしまうように思います（自動車、金融、大学問わず）。その before & after が描けないか。また、そこで何か商売ができないか、という実務的含意を探っています。これらについてゼミの内外のメンバーで共同研究を行なっています。

4. WEB ページなど

立命館大学研究者学術情報データベース

<http://research-db.ritsumeai.ac.jp/Profiles/36/0003537/profile.html>

(別に研究サイトを構築中です)

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

千葉商科大学をへて立命館大学経営学部教授（現在に至る）

経済統計学会、流通学会

6. 求める院生像

求む共同研究者



石川 亮太

Ryota ISHIKAWA

職位 教授
学位 博士（文学、大阪大学）

教員の自己紹介

静岡市出身で、大学時代は大阪で過ごしました。朝鮮半島や沖縄、中国など東アジアとの交流の上に成り立っていた大阪の歴史に興味をひかれ、経済史の勉強を始めました。現在は19世紀の朝鮮半島を中心に、東アジアの国境を越えて活動していた商人や労働者たちの歴史に関心を持っています。立命館大学には2012年4月に着任しました。

1. 主要な研究テーマ

- 1) 朝鮮近代社会経済史
- 2) 近代東アジアにおける国際商業と移動

2. 主要業績

博士論文「近代朝鮮をめぐる国際流通の形成過程：アジア域内市場の中の朝鮮植民地化」にて第2回アジア太平洋研究賞佳作（主催：アジア太平洋フォーラム淡路会議）。著書『近代アジア市場と朝鮮：開港・華商・帝国』（名古屋大学出版会、2016年）にて日経・経済図書文化賞（主催：日本経済新聞社・日本経済研究センター）。参加中の科研費プロジェクト：「朝鮮環境史の創成にむけた河川の管理・利用に関する総合的研究」、「経済発展における重層的決済システムの役割と近代銀行史の再考」、「近代中国の経済「制度」とその国際的比較」ほか（いずれも分担）。

3. この研究のここが面白い！

朝鮮半島にはアジアの中でも相対的に同質性の高い社会が形成されています。くわえて第2次大戦後の歴史学界では植民地支配の克服と国民国家の形成に資することが、南北を問わず共通の課題となってきました。そうした状況のなかでは、現存の国境線を前提とした「国民の歴史」の枠組みを踏み越えることは、なかなか困難でした。一方で朝鮮をとりまく東アジア世界については、モノ、ヒト、カネや情報の越境的な動き、さらに広域的な環境の変化などが地域の歴史全体にダイナミックな影響を与えてきたことが明らかになりつつあります。朝鮮半島の歴史についても、長期にわたって形成されてきた社会の固有性を念頭におきつつ、それを広域的な文脈の中に置いて解釈することが必要だと考えています。そのような視角を獲得することは、私たちが住む日本の社会について捉えかえす上でも有用であるはずです。

4. WEB ページなど

個人ページはありません。業績等については本学の研究者学術情報データベースをご覧ください。
<http://research-db.ritsumeai.ac.jp/Profiles/96/0009515/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

1974年静岡県生まれ。大阪大学文学部史学科（東洋史専攻）、同大学院文学研究科修士課程、博士課程を修了。佐賀大学経済学部講師、准教授を経て2012年4月から本学に勤務。ソウル大学校奎章閣韓国学研究院に客員研究員として滞在（2007～08年）。朝鮮史研究会関西西部会幹事。滋賀県草津市在住。

6. 求める院生像

自分のフィールド（たとえば朝鮮・近代史）だけでなく、隣接の地域やディシプリンにまたがった読書が苦にならないこと。現代朝鮮語の文献が読解でき、オーラルコミュニケーションについても訓練を欠かさないこと。



猪口 真大

Masahiro INOUCHI

職位 教授

学位 博士（経済学、一橋大学）

教員の自己紹介

専門分野は国際金融、開発金融です。新興国・途上国の金融システムや金融政策について関心があり、実証分析を行っています。最近、特に国際資本移動との関係に注目して研究を進めています。趣味はほとんどありませんが、大相撲を観戦する（テレビです）のは好きです。

1. 主要な研究テーマ

- 1) 新興国と国際資本移動
- 2) 新興国・途上国の金融システムおよび金融政策

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

2. 1 過去5年間の主要研究業績（査読付きの論文）

Nonperforming Loans and Purchase of Loans by Public Asset Management Companies in Malaysia and Thailand. *Pacific Economic Review*, 21:5, pp.603-631, 2016.

Insurance Business Synergies, Economic Growth and Strategic Planning. *International Journal of Business Environment*, 8 (3), pp. 191-216, 2016 (Yu-Luen Ma, Nat Pope, Yoshihiko Suzawa 氏と共著).

Interbank market, stock market, and bank performance in East Asia. *Pacific-Basin Finance Journal*, Vol.25, pp.136-156, 2013.

2. 2 科学研究費採択テーマ（現在受託中の科研費）

基盤C「新興国のソブリン・クレジット・リスクと対外ショック」

2. 3 受賞歴

「第4回 井植記念・アジア太平洋研究賞」（アジア太平洋フォーラム・淡路会議）

3. 研究のここが面白い

- 1) 国際的な資本移動の要因および影響
- 2) 新興国・途上国の金融システムや金融政策
- 3) 上記1と2の新興国と先進国の違い

4. WEB ページなど

個人の Web ページはありません

立命館大学研究者学術情報データベース

<http://research-db.ritsumeit.ac.jp/Profiles/118/0011758/profile.html>

5. 所属学会

日本経済学会

日本金融学会

East Asian Economic Association

6. 求める院生像

基礎的な学習にも真面目に取り組み、かつ、研究に熱心である院生



大浦 啓輔

Keisuke OURA

職位 教授

学位 博士（経営学、神戸大学）

教員の自己紹介

専門は管理会計およびマネジメント・コントロールです。企業が経営戦略を実現するためにどのようなマネジメント・コントロールや管理会計システムが有効なのか、その役割や有用性を研究しています。近年は、特にサプライチェーンマネジメントや製品開発等を対象とした組織間協働における管理会計の仕組みや役割等を研究しています。趣味はテニス。香川県出身。

1. 主要な研究テーマ

- 1) 組織間協働におけるコストマネジメントおよびマネジメント・コントロール
- 2) 原価管理システムや業績管理システムの実証的研究

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

【研究業績】

「地方公共団体における業績管理情報の利用と有効性」『原価計算研究』第40巻第2号、近刊、2016年、松尾貴巳との共著。
「サプライチェーンにおける調達リスクに適応する組織設計：オムロン株式会社における事例研究」『原価計算研究』第39巻第2号、pp55-67、2015年、単著。

“A Longitudinal Case Study of Target Cost Management Implementation at a Shipbuilding Company” *Journal of Accounting and Organizational Change*, Vol.9, No.4, pp.448-470, 2013年、Yasukata Kenji, Yoshida Eisuke, Yamada Ichiro との共著。

【科研費】

基盤研究（C）組織間コストマネジメントにおける協働の促進・阻害要因に関する経験的研究
（研究課題領域番号：16K03984）、2016年4月－2019年3月。

【受賞歴】

日本原価計算研究学会学会賞（論文賞）2008年。

3. この研究のここが面白い！

管理会計実務者へのインタビュー調査などによって、企業の内部管理を取り巻く現代的な課題に触れ、一緒にその解決法を議論することなど、またアーカイバルデータや質問票データなどの量的なデータを用いて分析しているのですが、表面的には見えてこない概念間の関係性や組織プロセスを発見したり、検証したりする作業は興味深いと思います。

4. WEB ページなど

立命館大学研究者学術情報データベース

<http://research-db.ritsume.ac.jp/Profiles/125/0012458/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

神戸大学経営学部卒業

神戸大学大学院経営学研究科前期課程修了

神戸大学大学院経営学研究科後期課程修了

滋賀大学経済学部講師

滋賀大学経済学部准教授

立命館大学経営学部准教授を経て教授（現在に至る）

6. 求める院生像

定量的あるいは定性的方法を用いた、経験的な調査や分析に調味のある院生



金森 絵里

Eri KANAMORI

職位 教授

学位 PhD 英カーディフ大学

教員の自己紹介

大学卒業後、イギリス会計史の研究を15年間続けました。その後、2011年3月11日の東京電力福島第一原子力発電所事故を機に、「エネルギー問題と会計」について研究を行っています。ガンジーの「7つの社会的罪(Seven Social Sins)」には「Science without Humanity (人間性なき科学)」が含まれています。人間性ある会計研究を目指しています。

1. 主要な研究テーマ

- 1) エネルギー問題と会計
- 2) イギリス会計史

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

2012年「会計保守主義の成立に関する歴史的分析－投資家保護思想の有無を中心に－」会計史学会年報第30巻、23-46頁（日本会計史学会研究奨励賞受賞）

2013-2016年 科学研究費基盤研究（C）「日本の原子力発電史の領域横断的研究」研究代表者

2016年『原子力発電と会計制度』中央経済社（環境経済・政策学会奨励賞受賞）

2017-2019年 科学研究費基盤研究（C）「日本における原子力発電に係る会計制度の研究」研究代表者

2017年度科学研究費（研究成果公開促進費）「学術図書」「日本における原子力発電のあゆみとフクシマ」代表者

3. この研究のここが面白い！

会計は、「事業の言語 (language of business)」と言われます。会計が、産業社会やビジネスに関する大量で複雑な情報を抽象化し要約するとともに、それを情報として伝達するからです。この意味で、会計は言語の一種であると言えます。よく知られているように、言葉は、同じ言葉でも、それを発した人や状況によって意味が変わることがあります。また、言葉が表面上の意味とは全く別の意味を含むこともあります。したがって、言葉を理解するということは、その言葉の意味を理解することです。会計も同様に、その会計数値が何を意味しているのかを理解することなしに、それを理解することはできません。その会計数値を作成した人の価値観や意図を理解してはじめて、その意味を読み取れるのです。会計は数字を扱うので、一見、「客観的」で「科学的」であるかのようにみえます。けれども、会計は言語の一種であり、人間が創造し一定の価値観に基づいて社会を構築するものなのです。そういった目で会計を研究しています。

4. WEB ページなど

立命館大学研究者学術情報データベース

<http://research-db.ritsumeit.ac.jp/Profiles/26/0002518/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

京都大学経済学部卒業

京都大学大学院経済学研究科博士前期課程修了

京都大学大学院経済学研究科博士後期課程中退

立命館大学経営学部専任講師、助教授、准教授を経て教授（現在に至る）

イギリス・カーディフ大学に留学、PhD 取得

6. 求める院生像

広く社会に目を向けて、問題意識をもって修士論文に取り組む院生を求めます。



菊盛 真衣

Mai KIKUMORI

職位 准教授

学位 博士（商学、慶應義塾大学）

教員の自己紹介

私が大学院を進学したのは、学部時代に所属したゼミで学んだ「マーケティング」という学問がとにかく面白く知的好奇心を掻き立てられたからです。マーケティングは、身の回りの現象を対象としているのでイメージしやすかったのかもしれませんが。その気持ちは今も変わらず、マーケティングや消費者の行動に関する様々な現象に対して、「なぜ？」という問いを立て、その問いに対する自分なりの答えを導き出すプロセスはとても楽しいと感じます。同じようにマーケティングや消費者行動について研究するのが面白いと学生の皆さんにも感じてもらいたいと思っています。

1. 主要な研究テーマ

- 1) インターネット上のクチコミが消費者行動に与える影響
- 2) 消費者の情報発信を促進する要因の探究

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

■主要研究業績

石井隆太・菊盛真衣、「制御焦点がチャネル選択・推奨に及ぼす影響—マルチチャネル・ショッパー行動の分析—」、『マーケティング・ジャーナル』（日本マーケティング学会）、第38巻第2号（2018年09月）、pp.52-67.

菊盛真衣、「クチコミ発信促進キャンペーンの効果測定—金銭的報酬 対 心理的報酬—」、『プロモーション・マーケティング研究』（日本プロモーション・マーケティング学会）、第9巻（2016年9月）、pp.27-45.（第1回日本プロモーション・マーケティング学会 学会賞受賞）

■受賞歴

2018年10月 日本マーケティング学会 マーケティング・ジャーナル ベストペーパー賞

（研究テーマ：独自性欲求が口コミ発信行動に及ぼす影響、『マーケティング・ジャーナル』第37巻第3号掲載論）

2018年1月 International Marketing Trends Conference 2018, Best Thesis Award

（研究テーマ：“Impacts of Electronic Word of Mouth on Consumer Product/Brand Evaluation”）

2017年11月 KSMS International Conference 2017 Best Conference Paper Award, Premier Award

（研究テーマ：“Which Do Multi-channel Shoppers Choose and Recommend: Online or Offline Stores?”）

3. この研究のここが面白い！

マーケティング研究の面白いところ その1「身の回りの現象を対象としている」

普段の何気ない買い物行動の中には、実に多くのマーケティングや消費者行動の研究トピックが含まれています。逆に言えば、自分の研究テーマを身近でイメージしやすい所から見つけることができるのは魅力です。

マーケティング研究の面白いところ その2「世界中の研究者と繋がっている」

私自身の体験に基づいているのですが、論理的に出されたオリジナルなアイデアを、客観的データを伴って発表すれば、国際学会などの機会を通じて世界中のマーケティング学者と肩を並べてディスカッションすることができます。世界との近さを感じることができるのも見良いです。

4. WEB ページなど

私の研究に関心があれば、以下の個人ウェブサイトアクセスしてみてください。

<https://sites.google.com/site/kikumorimai/>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

慶應義塾大学 商学部商学科卒業

慶應義塾大学大学院 商学研究科修士課程修了

慶應義塾大学大学院 商学研究科博士号（商学）取得

日本商業学会、日本消費者行動研究学会、日本マーケティングサイエンス学会所属

6. 求める院生像

- ・探究心が強く、研究に対して真摯に、かつ熱心に取り組むことができる
- ・英語で書かれた関連論文や書籍を読み、マーケティングの知識を広く吸収する意欲がある
- ・自分のオリジナルなアイデアを生み出そうとする意欲と発想力がある

木下 明浩

Akihiro KINOSHITA

職位 教授
学位 博士（経済学、京都大学）



教員の自己紹介

2016年度は、イギリスのエジンバラ大学に留学しておりました。国際的な都市の文化と歴史に触れつつ、小売事業を Embeddedness（埋め込み）の点から研究していました。現在小売事業ブランドの生成・発展を小売ビジネスモデルおよび埋め込みの視点から研究を続けています。

1. 主要な研究テーマ

- 1) 小売事業ブランドの生成・発展
- 2) Embeddedness 概念の小売事業研究への応用

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

Kinoshita, A. (2018), How is a Retail Business Brand Embedded in Social Structures, Networks, and Territories? A Historical Case of Uniqlo, *Distribution Studies*, 41, pp.1-18.

木下明浩（2016）「小売事業ブランドの生成・発展－ユニクロを素材として－」『拓殖大学経営管理研究』106号、243-271頁。

木下明浩（2016）「小売ブランド研究に関する一考察」『立命館経営学』第54巻第4号、89-111頁。

木下明浩（2011）『アパレル産業のマーケティング史』同文館出版。

日本流通学会賞、2011年。

3. この研究のここが面白い！

小売事業が社会的な諸環境、当該小売事業を取り巻くネットワーク、地域に埋め込まれ、同時に自らをその関係に埋め込んでいく動態的なプロセスをとらえる研究をしています。

4. WEB ページなど

私の研究に関しては、下記をご覧ください↓

<http://research-db.ritsumei.ac.jp/Profiles/35/0003463/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

京都大学法学部卒業

京都大学大学院経済学研究科前期博士課程、後期博士課程修了。

立命館大学経営学部助教授

立命館大学経営学部教授（現在に至る）

日本商業学会理事（2013年6月～2017年5月）

日本流通学会理事（2008年11月以後現在に至る）

6. 求める院生像

経営学の基礎をふまえ、論理的な思考力と実直さをもって修士課程で学び、将来の進路を切り拓く学生を求めます。



金 昌柱

Changju KIM

職位 教授

学位 博士（商学、大阪市立大学）

教員の自己紹介

趣味は、研究室にある植物を大事に育てることです。コーヒーの木を二つも育てていたのですが、出張の間に枯れてしまいました。植物も人間と一緒に愛情を込めたお世話が必要ですね。もう一つの趣味は、観光地でその地域の美味しい食べ物や、とくに地酒を飲みながら、こういった人生も幸せだな〜と自分のことを振り返ってみることです。

1. 主要な研究テーマ

- 1) マーチャンダイジング革新における小売企業の組織基盤
- 2) 営業組織の生産性に関する組織的課題
- 3) 企業成長におけるグローバリゼーション戦略に関する事例・実証分析

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

「主要研究業績」

Kim, C., Takashima, K. and Newell, S. (2018), "How do retailers increase the benefits of buyer innovativeness?: an intra- and inter-organization perspective", *Asia Pacific Journal of Marketing and Logistics*, Vol. 30 No. 3, Forthcoming.

Suh, Y and 金昌柱 (2017), 『(不況にもっと強い) 不死鳥企業 (韓国語)』, The Quest, Gilbut Publisher, pp. 1-288.

Takashima, K. and Kim, C. (2016), "The effectiveness of power-dependence management in retailing", *International Journal of Retail & Distribution Management*, Vol. 44 No. 1, pp.71-88.

「科学研究費採択テーマ」小売企業における革新的仕入行動とバイヤーの管理問題 (2016.04-2020.03)

「受賞歴」2017 Korean Scholars of Marketing Science, Best Conference Paper Award (with Miao Miao and Bin Hu)

3. この研究のここが面白い！

これまでの小売企業の仕入活動に関わる研究は、小売企業の競争力の基盤という実践的課題において重要な示唆を与えるにも関わらず、とくに小売企業内部の組織戦略や管理問題の視点からの研究は注目されなかった。小売企業の戦略的課題を、1) バイヤー育成と管理、仕入部門と販売部門の連携や知識管理などという小売企業の内部組織と2) 仕入先との関係管理という企業間関係の両局面の管理問題から解決することは本研究の学術的特色の一つであり、従来の小売企業研究やチャネル研究の発展に寄与する面白いところである。

4. WEB ページなど

私の研究に関しては、下記の個人公式ホームページをご覧ください↓
<http://research-db.ritsumei.ac.jp/Profiles/80/0007921/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

プロフィール

(韓国) 東義大学商学部卒業

(イギリス) カーディフ大学大学院 経営学研究科 修士課程 修了

大阪市立大学大学院 経営学研究科 博士課程修了

立命館大学経営学部准教授

(アメリカ) ウェスタンミシガン大学 留学

所属学会

日本商業学会、日本流通学会、日本農産物流通学会、韓国流通学会、Global Alliance of Marketing & Management Associations (GAMMA)、Korean Scholars of Marketing Science (KSMS)

学会役職

2013/08- 流通物流研究 (韓国流通物流政策学会) 編集委員

2014/04- Asia Marketing Journal A member of the Editorial Review Board

2015/03- 日本流通学会 国際交流委員

2015/11- Korean Scholars of Marketing Science (KSMS) A Member of the Board of Directors

2017/03- Journal of Global Scholar of Marketing Science A member of the Editorial Review Board

2017/03- 流通研究 (韓国流通学会) 編集委員

2017/03- 韓国流通学会 副会長

2017/06- 日本商業学会 国際企画委員長

6. 求める院生像

国際的感覚を重視する、熱意のある、楽しく明るい方を大歓迎します。



桐畑 哲也

Tetsuya KIRIHATA

職位 教授

学位 博士（経済学、京都大学）

教員の自己紹介

アントレプレナーシップ研究は、研究を研究だけに終わらず、実務への貢献を目指すことが重要と考えている。私と一緒に、アントレプレナーシップの“理論と実践”の両方を探求したいという学生を歓迎する。

1. 主要な研究テーマ

- 1) アントレプレナーシップ
- 2) アントレプレナーファイナンス

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

『日本の大学発ベンチャー』 京都大学学術出版会 2010/06

Crowding-in or crowding-out? : the effects of public venture capital policies Kirihata Tetsuya The Ritsumeikan Business Review 56/ 1, 165-174 2017/05

「ベンチャーキャピタルの新技术ベンチャー育成機能に関する国際比較研究」科学研究費補助金基盤研究（C）、文部科学省、2012-2016 年

3. この研究のここが面白い！

大学、研究機関等の最先端研究をベースとした「新技术ベンチャー」は、革新的技術の創出のみならず、経済成長、雇用等への波及効果が高いとされる。この「新技术ベンチャー」育成に貢献しているとされるのが「ベンチャーキャピタル」である。「ベンチャーキャピタル」は、投資家として「新技术ベンチャー」に研究開発資金に加えて、様々な支援を提供するとされる。

私の研究は、こうした「ベンチャーキャピタル」及び「新技术ベンチャー」を主たる研究対象としている。日本へのフィードバックを念頭に、諸外国の現状と課題、さらには、育成施策等を定性定量の両面から研究している。

4. WEB ページなど

私の研究に関しては、下記の個人公式ホームページ↓

<https://sites.google.com/site/kirihataweb/home>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

1970 年生まれ。京都府出身。立命館大学経営学部教授。京都大学経済学研究科博士課程修了（経済学博士）、日本放送協会記者、株式会社三菱総合研究所研究員等を経て現職。所属学会は、The Academy of Management、The Regional Studies Association 等。

6. 求める院生像

アントレプレナーシップ、アントレプレナーファイナンスに関する実務への関心と共に、コツコツと研究を遂行できる努力を惜しまぬ姿勢



黒木 正樹

Masaki KUROKI

職位 教授

学位 博士（経営学、レンセラー工科大学）

教員の自己紹介

アメリカ合州国：Rensselaer Polytechnic Institute で博士を取得しました。

趣味：風景ポスターの収集、

好きなこと：野球、スキー、スノーシュー、野外キャンプ、山登り。最近、筋肉増強に目覚めました。こだわり、野球：「50 年以上にわたる涙の広島カープファン」。しかし、2016 年度以来、少し安心してプロ野球観戦をしています！

1. 主要な研究テーマ

- 1) ベンチャー企業の人事戦略&人材育成
- 2) 起業家（アントレプレナーシップ）教育

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

1. “The role of Social Capital in promoting university centered innovation in Japan,” (2014)
International Journal of Business and Systems Research, Vol.13, PP.24-36.
2. 「大学を核とするイノベーションシステムの構築」 2011 立命館経営学 第 49 巻 第 5 号 PP.115-140.

科学研究費採択テーマ：「リージョナル・イノベーション・システム（RIS）を形成する組織間関係者の特質・資質の調査」
2007, 2008, 2009

3. この研究のここが面白い！

ベンチャー企業の事例研究手法を主に使いますが、ベンチャー企業の創業者へのインタビューや従業員への聞き取り調査等で、論文には表現し難い出来事等の話を直に聞けます。調査のプロセスで面識を得た方々に、大学の授業で講演してもらっています。また、ベンチャー企業の創業者達の交流会へも頻繁に呼ばれることがありますが、ベンチャー企業の創業者達は兎に角アイデアが豊富で、常に起業家目線での刺激を提供してくれます。

4. WEB ページなど

<http://www.ritsume.ac.jp/ba/entre/>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

1999 年 4 月 1 日～ 立命館大学経営学部 専任講師
2002 年 4 月 1 日～ 同上 准教授
2005 年 4 月 1 日～ 同上 教授（現在に至る）

2016 年 4 月 1 日～ 日本ベンチャー学会 理事（起業家教育委員会担当）（現在に至る）

2014 年 4 月 1 日～ 厚生労働省地域雇用開発支援ワーキングチーム委員（現在に至る）

6. 求める院生像

多様な視点で物事を見ることが出来る方。英文読解が苦手でない方。

小久保 みどり

Midori KOKUBO

職位 教授
学位 社会学修士（東京大学）



教員の自己紹介

大学を卒業後、企業に勤務しました。その時の経験が現在の研究の出発点になっています。その後大学院に入り、それ以来、産業・組織心理学、社会心理学、組織論関係の研究をしています。

趣味は観劇及びピアノ。観劇に関しては、歌舞伎、文楽、能から現代劇、ミュージカル、オペラまで好きです。近所に映画館があるので、映画を見に行くことも多いです。

1. 主要な研究テーマ

- 1) 環境不確実性とリーダーシップ
- 2) 緊急事態における組織の対応
- 3) 非正規従業員の雇用環境と働きかた
- 4) 若者のキャリア開発

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

『日本における原始力発電のあゆみとフクシマ』 晃洋書房、2018 年（共著）。

「仕事内容と雇用形態選択理由からみた非正規従業員のワーク・モチベーション」2016 年『立命館経営学』54 巻 6 号

「従業員の組織内階層による直属上司のリーダーシップ効果の違い」2013 年『立命館経営学』52 巻 1 号

3. この研究のここが面白い！

昨今、「働き方改革」という言葉をよく聞きますが、私も企業で働いているときに、さまざまな問題を感じました。そういうことについて、先行研究を調べて仮説をたて、主に質問紙調査を行って、研究してきました。仮説が支持されたときはもちろん、支持されなかったとしても、データから思わぬことがわかったときがとてもおもしろいです。そういうことだったのだと現実の問題が一部でも解明できて、わくわくします。

また、出身が福島県ということもあり、福島第一原発事故を契機として、緊急事態への組織の対応について研究していますが、さまざまな領域の研究者と情報交換して、研究分野を超えた知見がえられたときもうれしいものです。

4. WEB ページなど

プロフィール等は立命館大学研究者データベースをご覧ください↓

<http://research-db.ritsume.ac.jp/Profiles/37/0003685/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

所属学会は日本心理学会、日本社会心理学会、日本グループ・ダイナミックス学会、組織学会、産業組織心理学会、経営行動科学学会。

6. 求める院生像

ガッツのある人、人間と社会に興味があり、努力する人。

教員の自己紹介

本学経営学部に着任して10年目になりました。介護施設や医療機関などヘルスケア分野を研究対象としています。特に日本の介護従事者の離職やスタッフィングの問題に注目しています。大学院生時代からイギリスの医療システム（National Health Service）の調査を通じた公企業のガバナンス研究も続けています。

1. 主要な研究テーマ

- 1) 医療福祉施設のマネジメント
- 2) 公共セクターにおけるガバナンス問題
- 3) プレア政権下での準市場原理の導入の検証
- 4) NPO セクターの分析

2. 主要業績

研究業績：

小島愛（2017）「イングランドにおける医師増加政策と社会的厚生：患者満足度の視点から」『立命館経営学』立命館経営学会、55/5、pp.113-130.

小島・大久保（2016）「日英の医療計画におけるプライマリケア提供圏の規模の比較：患者数および医師数の比較から」『政策科学』立命館大学政策科学会、23/3、pp.33-52.

科研費：

若手研究C「介護ビジネスの国際化戦略に関する理論構築と実証」（研究代表者、平成30-33年）

3. この研究のここが面白い！

公企業や非営利組織など、営利ではない組織の行動を研究対象としています。とりわけ、身内の介護体験を通じ介護の諸問題を真剣に考えるようになったため、政策にインパクトを与えられる可能性をもった研究成果が得られた時に充実感を感じます。

4. WEB ページなど

詳しくは以下の個人ウェブサイトをご覧ください。

<http://meguko.jp/>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

プロフィール：

明治大学大学院商学研究科修了

立命館大学経営学部助教

立命館大学経営学部准教授（現在に至る）

所属学会：

日本経営学会

組織学会

Association for Research on Nonprofit Organization and Voluntary Action

6. 求める院生像

自分の研究テーマを丁寧に掘り下げる知的好奇心と各種研究スキルを習得する熱意があること。



小林 磨美

Mami KOBAYASHI

職位 教授

学位 博士（経済学、京都大学）

教員の自己紹介

京都大学薬学部卒業後、米国系メーカー研究員としての勤務経験があります。

ミクロ経済学を基盤とする応用理論研究をしています。

1. 主要な研究テーマ

- 1) 金融システムのミクロ経済学的分析
- 2) 銀行規制をめぐる理論分析

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

大学の以下のサイトを参照ください：

<http://research-db.ritsumei.ac.jp/Profiles/105/0010401/profile.html>

3. この研究のここが面白い！

2007-2009年の世界的金融危機を受け、金融システムの在り方や銀行を中心とする金融機関に対する望ましい規制、そして危機後の大規模な金融緩和と政策の影響などさまざまな問題が議論されています。制度や規制が金融機関や投資家などの異なる経済主体のインセンティブにどのような影響を与えるかを考えることによって、それらの望ましいあり方を研究しています。

4. WEB ページなど

最新の論文は以下を参照ください：

<http://ssrn.com/abstract=3132869>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

京都大学薬学部卒業

外資系メーカー勤務等を経て

京都大学大学院経済学研究科修了。

近畿大学講師、准教授、立命館大学経営学部准教授

立命館大学経営学部教授（現在に至る）

6. 求める院生像

面倒くさがることなく、地道に基礎的な知識を身に付けてうえで研究に臨むことができる人。



近藤 宏一

Koichi KONDO

職位 教授

学位 修士（経営学、立命館大学）

教員の自己紹介

長崎・諫早の生まれ、福岡と京都で育つ。立命の経営学部・大学院経営学研究科出身ですが、学生団体全国事務局や出版社に勤務経験あり。1997年より経営学部の教員となる。学部での担当科目は「企業と経営」「交通システム論」「サービス・マーケティング論」ですが、現在の主な研究領域は、「サービス・マネジメント理論の多様な分野への応用－交通システム、文化・芸術、まちづくりを中心に」。趣味は旅行（主に東アジア）と音楽（主にクラシックで、ジャズ、ロックなども）なので、趣味と研究がうまく重なっている？

連絡先：kondok@ba.ritsumei.ac.jp

1. 主要な研究テーマ

サービス・マネジメント理論の多様な分野への応用－交通システム、文化・芸術、まちづくりを中心に

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

論文「オーケストラにおける関係性マネジメント－戦後日本のオーケストラの展開を振り返って」『音楽芸術マネジメント』、2015/11。

論文「台湾の民間オーケストラ事情」『立命館経営学』2015/09

論文「ドイツにおける都市鉄道の変容」『運輸と経済』2011/11

科研費「オーケストラ経営の課題と展望－東アジア地域における比較研究を通じて」（2013-2017）

3. この研究のここが面白い！

鉄道やバス路線の廃止が続いています。利用者の減少が直接の原因ですが、背景にあるのは「運賃収入で費用をまかなう」という原則です。社会システムが整備されている国ではほとんどの場合、地域の公共交通に公的資金を投入し、利用者が支払える運賃で路線を維持し、モータリゼーションの対策として公共交通の利用者を増やすために智恵をしまっているのですが、日本は長らく公的資金の投入には慎重で、まとまった補助制度があるのは、過疎地のバス運行や地下鉄の建設資金、踏切解消のための高架化の費用などに限られてきました。

しかし、2000年前後の規制緩和と政策の影響もあり、こうした政策の限界が非常に明確になってくる中で、国の政策が大きく変わりつつあります。特に2015年の「地域公共交通活性化法」改正は大きな転機となりました。こうした政策の変化を積極的に利用しつつ、多様な交通手段を使っていかにして地域の公共交通を再生し、有効なものにしていくのかを考えるうえでは、経営学的視点も有効です。自治体、地域住民、労働組合の方々とも交流しながら、「地域の足を守る経営学」を作っていきたいと考えています。

4. WEB ページなど

地域公共交通活性化法の改正については、国土交通省の下記のページを見て下さい。

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000055.html

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

プロフィール

1989年 立命館大学経営学部卒業

1990～1991年 新日本出版社勤務

1993年 立命館大学大学院経営学研究科入学。

1997年 立命館大学経営学部専任講師（のちに助教授→准教授→教授、現在に至る）

2004～2005年 ドイツ・マンハイム大学にて学外研究

2008～2011年 立命館大学経営学部副学部長

主な所属学会

交通権学会（2003年より理事、現在に至る）、日本科学者会議（1997-1999 常任幹事）、

日本交通学会、日本流通学会、文化経済学会、日本音楽芸術マネジメント学会

6. 求める院生像

①理論的な基礎をきちんと学ぶ姿勢をもつ人。

②狭い意味での企業経営だけでなく、地域や社会といった広い視野から問題をとらえようとする人。

齋藤 雅通

Masayuki SAITO

職位 教授



教員の自己紹介

専門（科目）分野は、国際マーケティング論です。関連して管理会計論も研究対象にして、国際比較の視点からグローバルなマーケティング展開をしている企業の調査研究を進めています。最近の研究テーマは、①マーケティングの国際比較研究、②アメリカにおける市場志向型利益管理論の発展史の2つです。ヨーロッパ（特にドイツ）とアジア、日本の小売業の比較に関心があります。

鴨川や北白川の疎水などを散歩しながら京都の四季の移り変わりを楽しんでいます。17年後半から6か月間、自然や文化の豊かなドイツのベルリンで、国際比較研究の専門研究に励みました。ドイツに滞在して調査研究して得た新しい知見をもとにして、研究をさらに発展させようと努力しています。

1. 主要な研究テーマ

- 1) マーケティング論の国際比較、及び国際マーケティング論
- 2) アメリカにおける市場指向の利益管理論の発展過程（マーケティングと管理会計の統合的な研究）

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

『グローバル競争と流通・マーケティング：流通の変容と新戦略の展開』（佐久間英俊と共編）ミネルヴァ書房、2018年1月
『製配販をめぐる対抗と協調－サプライチェーン統合の現段階－』（木立真直と共編）白桃書房 2013年10月
『海外企業のマーケティング』マーケティング史研究会編 同文館出版 2010年12月

3. この研究のここが面白い！

経営学も、マーケティング論も成立してから100年ほどの新しい学問分野です。マーケティング論の中味も体系も、出来上がってしまっているわけではありません。

多くの経営管理者や研究者が、その発展のために貢献してきましたが、これからも発展させていくことができるし、大学院に進学した皆さんの研究成果や、社会に出てからの仕事の中でのマーケティング活動への取組みが、マーケティング論をさらに新しい管理活動へと発展させることにつながります。ぜひ皆さんの手で、マーケティング論を発展させて下さい。

そのためには、マーケティングの実際の活動を観察することが大切です。そうすると、書物に書かれているのとは全く違うマーケティングがなされているケースが見えてきます。そこまでいかなくとも、実際に行われているマーケティングは、どの企業も同じでも、標準化もされていなくて、実はそれぞれの組織の個性が見られます。企業や組織の実際のマーケティング管理を調査することで、みなさん自身が個性的なマーケティングの新しい発見をもたらします。国際比較を取り入れると、さらに多様で豊かなマーケティングの実践を見ることができ、新しい理論をつくり上げることができます。

4. WEB ページなど

詳しい研究業績や役職・社会活動などは、大学の研究者データベースをご覧ください。
<http://research-db.ritsumeit.ac.jp/Profiles/34/0003302/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

学生時代は、会計数値を利用して経営を管理する管理会計のゼミでした。大学院の博士課程で、企業の外部環境も含めて管理する予算管理を研究しているうちに、研究分野をマーケティング論に移してきました。現在は、マーケティング論を軸に、予算管理分野も含めて研究しています。講義は、「マーケティング論」と「国際マーケティング論」を担当しています。

マーケティング分野では、日本流通学会（副会長職にあります）、日本商業学会に所属し、会計分野では、日本管理会計学会、日本会計研究学会に加入しています。

6. 求める院生像

日々生活のなかで、マーケティング要素を発見するなど、研究のアンテナの感度を磨いている学生



佐藤 典司

Noriji SATO

職位 教授

学士 (政治経済学) 早稲田大学

教員の自己紹介

広告会社から転身して、デザインマネジメントを教えています。最近では、デザインの価値とは、根本的にどういう経済価値なのだろう、ということに興味をもっています。私流にいうと、デザインの価値とは、情報の価値ということになるのですが、情報の価値は、モノの価値と比べて、どんな性格があるのだろう、ということ进行研究しています。趣味は、ゴルフと芸術鑑賞です。

1. 主要な研究テーマ

- 1) デザインマネジメント
- 2) 情報価値研究

2. 主要業績

- ・『情報消費社会を勝ち抜くデザインマネジメント戦略』NTT 出版、1999 年
- ・『情報消費社会のビジネス戦略』経済産業調査会、2007 年
- ・『モノから情報へ』経済産業調査会、2012 年
- ・『複素数思考とは何か』経済産業調査会、2016 年

3. この研究のここが面白い！

デザインマネジメントって何？という人も多いと思いますが、ひと言でいうと、デザインのパワーを使って、ビジネスの発展をはかっていこうという学問です。学問としては新しい領域ですが、現実のビジネス社会では、例えば、製品のデザインであったり、広告や売り場のデザイン、ブランドマーク、企業サイトによるコミュニケーションなど、デザインを使った経営手法は、年々盛んになっています。研究テーマとしては、新しく面白い分野かと思います。

4. WEB ページなど

立命館大学研究者学術情報データベース

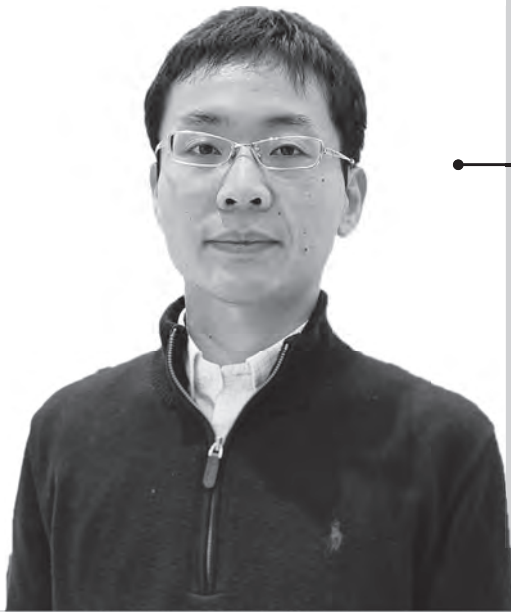
<http://research-db.ritsumei.ac.jp/Profiles/38/0003773/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

早稲田大学政治経済学部経済学科卒業
(株) 電通入社
(株) 電通を退社し、立命館大学経営学部教授（現在に至る）
日本デザイン機構理事

6. 求める院生像

新しい研究分野に興味のある人



佐野 宏樹
Hiroki SANO

職位 准教授
学位 Ph.D. (The University of Texas at Austin)

教員の自己紹介

2016年4月より立命館大学経営学部にて勤務しています。オペレーションズ・マネジメントの研究者として、製造業、サービス業、小売業など幅広く関心を持って研究・教育活動を行っています。2019年4月から2020年3月までシンガポール国立大学（National University of Singapore）での学外研究を予定しており、この機会に少しでも中国語の学習を進められたらと思っています。

1. 主要な研究テーマ

- 1) 半導体産業における技術マネジメント
- 2) 観光関連産業におけるサービス・マネジメント

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

Xiaole Wu, Panos Kouvelis, Hirofumi Matsuo, Hiroki Sano (2014) "Horizontal Coordinating Contracts in the Semiconductor Industry" European Journal of Operational Research 237/ 3, 887-897

佐野宏樹、松尾博文 (2011) 「半導体製品のサプライチェーンにおける生産能力予約契約」オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会論文誌 2/ 1, 70-83

3. この研究のここが面白い！

Buell et al. の "Creating Reciprocal Value Through Operational Transparency" という研究論文では、消費者と生産者の間の視覚的な透明性をもつ価値について研究しています。この論文ではフードサービスにおいて、顧客から見た生産者の作業に関する透明性と、従業員から見た顧客の動きに関する透明性が、サービスに関する顧客の知覚とサービスの品質・効率性を改善しうることを提案しています。サービスにおいてオペレーションの透明性がもたらす価値を示す事例としては、新幹線の清掃整備業務を行う日本企業の TESSEI が有名です。

4. WEB ページなど

私の研究に関しては、下記の個人公式ホームページをご覧ください↓
<http://research-db.ritsumeai.ac.jp/Profiles/125/0012481/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

- 2007 神戸大学経営学部卒業
- 2009 神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期課程修了
- 2012 テキサス大学オースティン校大学院ビジネススクール修士課程修了
- 2015 テキサス大学オースティン校大学院ビジネススクール博士課程修了
- 2016 立命館大学経営学部准教授（現在に至る）

所属学会（2019年）：INFORMS, POMS, EurOMA, JOMSA

6. 求める院生像

大学院では大学学部時代以上に、自ら何をすべきかを考えて行動する姿勢が大事になると思います。



瀧 博
Hiroshi TAKI

職位 教授
学位 博士（経済学、名古屋大学）

教員の自己紹介

学部、大学院時代からずっと公認会計士制度を研究して、もう30年近くになります。立命館には2006年に経営学部に着任しましたが、2009~2016年度の8年間、経営大学院で主にアカウンティングスクールの運営に携わり、大学外の実務界とのつながりの中で研究を進めてきました。その経験は是非とも、大学院教育にも活かしたいと思っています。趣味は、座禅と水泳です。

1. 主な研究テーマ

- 1) 会計プロフェッション（専門職）のグローバル化
- 2) イノベーションの進化と監査

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

<主要研究業績>

- 『アカウンティング・プロフェッション論』（同文館出版、2013年）（分担執筆）
- 『会計士監査制度の再構築』（中央経済社、2012年）（分担執筆）
- 「監査上の立証構造における職業的懐疑心の役割」『現代監査』（日本監査研究学会、2014年）、第24巻、42 - 49頁。

<科学研究費採択テーマ>

2016-2018年度「EUにおける監査規制が監査の質に与える影響に関する学際的研究」（基盤研究（B）、研究分担者としてドイツの制度を担当）

<受賞歴>

日本監査研究学会監査研究奨励賞（2014年）

3. この研究のここが面白い！

監査の研究は、財務会計やコーポレート・ガバナンスの「現実」に触れ、各種の不正事例（粉飾決算や違法行為）を防ぐための制度設計とその有効性の評価を行うことを重要な役目としています。何より、面白いのは、現実の事件を掘り下げたり、公認会計士の業界やその市場の実態を知りうる機会に恵まれることです。公認会計士は、会計分野の専門職（プロフェッション）ですが、プロフェッションには、他に医師や法律家があり、海外では非常に多くの研究が蓄積されていますが、わが国では極めて研究が少ないため、これから期待される研究分野です。

それから、現在、将来なくなる職種の代表として会計専門職が挙げられることがあります。しかし、それは、会計を知らない人の言葉ですね。すでに財務諸表の数値の多くは、過去情報でなく将来情報であり、機械的に判断できるほど簡単な内容ではありません。むしろ、いままで「忙しかった」部分がAI等により自動化されることで、本来の会計のあり方（事業計画を含め経営の実態が本当に財務諸表に反映されているか）という、会計や監査の本質論を議論する時間と機会が開かれることになるでしょう。これから企業制度、資本市場の制度はテクノロジーの進化の中で「壊れて」いきます。その中からどのような新しい制度が出てくるか。面白い研究分野に発展していくことでしょう。

4. WEB ページなど

立命館大学研究者学術情報データベース
<http://research-db.ritsumeai.ac.jp/Profiles/30/0002956/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

名古屋大学経済学部卒、名古屋大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。
ロンドン大学客員研究員（2012年度）
日本会計研究学会
日本監査研究学会（理事、2016年9月～）
日本会計教育学会
日本中小企業会計学会

6. 求める院生像

既存の理論（他人の目）という垢にまみれず、つねに「自分の目」で本質を追求する精神をもった研究者になる覚悟のある院生を希望します。



田中 力

Tsutomu TANAKA

職位 教授

学位 農学修士（京都大学）

教員の自己紹介

和歌山県紀ノ川市桃山町出身。大学では経済学、大学院では農林経済学を専攻。立命館大学へは1990年に着任。土地・住宅、農林業を対象に地域統計分析を行うとともに、統計理論の研究をおこなっている。イタリア、ドイツでの学外研究を通して、国際統計比較にも関心あり。

多趣味ですが、とくに古楽（中世からルネサンス、バロック期の音楽）、楽器はフラウトラベルソ。カトリック河原町教会の聖歌隊。また、茶の湯と和歌。育てる里山プロジェクトリーダーなど。

1. 主要な研究テーマ

- 1) 統計の調査と利用に関する社会統計学的研究
- 2) 農林業を中心とする地域経済の統計分析

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

岩井浩、福島利夫、菊地進、藤江昌嗣編『格差社会の統計分析』北海道大学出版会 2009/06

吉田忠編『生活空間の統計指標分析』産業統計研究社 2002/03

日本・ドイツ・イタリアの土地・住宅問題の国際比較統計分析（2000-2003 年科研）

土地センサス導入による土地統計体系の変容と新たな土地所有像（1995 年科研）

3. この研究のここが面白い！

統計データを利用して、農林業を中心とした地域経済の分析を行っています。環境にやさしい循環型社会の構築が課題とされていますが、家族農業をベースにしたスローライフ的な地域形成がその鍵になるのでは、と考え、その現状と可能性について統計データにもとづき実証的に研究しています。

経営学との接点としては、農林業によって提供される、衣・食・住にかかわる素材および商品の生産・流通・消費・廃棄にいたる全過程、また、それらのデザインや文化的意味を考えるということで、広い意味でマーケティングにかかわる分野が守備範囲になります。

専門の統計学では、イタリアやドイツの大陸派数理統計学の流れに位置する記述統計学の方法論に関心を持っています。また京都府企画統計課のみなさんと市町村統計分析の共同研究を進めていて府民向けのパンフレットなども出しました。

統計数字はそれ自体、数値の羅列に過ぎませんが、統計指標に計算したり、グラフ化したりすることで、その背後にある社会集団の一面が浮き彫りになることがあります。その意味を、経験的事実や先行する知見にもとづいてあれこれ考えることがこの上なく楽しいのです。

4. WEB ページなど

特に WEB ページは設けていませんが、「育てる里山」で検索してみてください。OIC で雑木林を作るプロジェクトの様子が紹介されています。

お茶を飲みながら雑談するなかで研究テーマに発展する種がみつかることも多いので、気軽に AC9306 を訪ねてください。

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

和歌山大学経済部卒業

京都大学大学院農学研究科単位取得。

1990 年立命館大学経営学部助教授

1994 年フィレンツェ大学統計学部、2000 年ベルリン市統計局で在外研究

立命館大学経営学部教授（現在に至る）

経済統計学会所属

6. 求める院生像

なにごとにも興味をもつ、知的好奇心の旺盛なひとであってほしい。

また、手足を動かして対象に迫る、フットワークの軽さが必要です。

そのためには時間的・精神的余裕が大切だと思います。



田中 幹大
Mikihiko TANAKA

職位 教授
学位 博士（商学、大阪市立大学）

教員の自己紹介

日本の中小企業、特に製造業を対象に研究しています。主に2つのことに取り組んでいます。1つは企業・工場調査を通じて、現在の中小企業が直面している経営課題を発見することです。2つ目は、産業発展の歴史の中で中小企業がどのように技術革新をしてきたかを調べることです。現場研究と歴史研究、この2つをいかに共鳴させていくかが私の研究課題です。

1. 主要な研究テーマ

- 1) 中国における日系中小製造業の研究
- 2) 中小企業の新技術導入に関する歴史的研究

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

- ・『中小企業・ベンチャー企業論－グローバルと地域のはざままで 新版』（共著）
- ・『地域産業政策－自治体と実態調査』（共著）
- ・『中国・日本の自動車産業サプライヤー・システム』（共著）
- ・『「縮小」時代の産業集積』（共著）
- ・一般財団法人商工総合研究所 中小企業研究奨励賞準賞 2011/02

3. この研究のここが面白い！

中小企業の経営者は現場に近いところで、日々、色々なことに頭を悩ませています。現場に行くと、経営者の悩み話を聞くことでリアルな経営の実態を知ることができるのが面白いです。個々の企業で直面している課題は異なりますが、いくつも企業を訪問していると一定の傾向がわかってきます。そうした傾向を見出すことも楽しいです。大学院生時から現在まで企業・工場調査は数百件、実施してきましたが、いまだ飽き足らないです。

歴史研究としては通説とは異なる視点を提示できるよう研究に挑戦するのがおもしろいです。「ふつう」の中小企業は、これまで弱小な存在としてとらえられてきましたが、生き残っているのはそれなりの理由があるからです。これまでに知られていない「ふつう」の中小企業の存在の積極的理由を明らかにして提示できるようにがんばっています。資料調査もおもしろいです。

4. WEB ページなど

立命館大学研究者学術情報データベース
<http://research-db.ritsumeai.ac.jp/Profiles/118/0011703/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

立命館大学経済学部卒業、大阪市立大学大学院経営学研究科修了。
小樽商科大学商学部准教授、摂南大学経済学部准教授、立命館大学経営学部准教授を経て立命館大学経営学部教授（現在に至る）

6. 求める院生像

企業・工場調査、フィールドワークを手法とする研究を考えている方。
産業発展や中小企業の歴史に関心のある方。
これまでの指導院生の研究テーマ例：「中国における日系中堅中小企業の管理職現地化に関する研究」「産業集積、サプライチェーンと事業承継問題」



谷川 智彦
Tomohiko TANIKAWA

職位 准教授
学位 博士（経営学、明治大学）

教員の自己紹介

専門は組織行動論と経営組織論です。2017年4月より立命館大学に着任しました。それまでは10年間東京に住んでおり、2017年が私にとって関西地方での初めての生活です。趣味はサッカー観戦で、よくJリーグの試合をスタジアムで観戦しています（最近は忙しくて、なかなかスタジアムに行けていませんが…）。山口県柳井市出身。

1. 主要な研究テーマ

- 1) 職場におけるダイバーシティとパフォーマンスとの関係性
- 2) トップ・マネジメント・チームの構成が企業戦略及び企業業績に対して与える影響

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

<主要研究業績>

Tanikawa, T., and Jung, Y. 2016. "Top management team tenure diversity and firm performance: Examining the moderating effect of TMT average age", *International Journal of Organizational Analysis*, vol. 24, no. 3, pp. 454-470.

<受賞歴>

2013年 経営行動科学学会第16回年次大会 大会優秀賞

3. この研究のここが面白い！

経営学において組織の考察は必要不可欠な要素ですが、その組織は決して均一な人物によって構成されるのではなく、様々な価値観や嗜好性を持つ人物によって構成されます。しかし、こうした個人が持つ様々な価値観や嗜好性を把握することは容易ではありません。そこで、私は個人が持つ様々な属性（性別や人種／民族性、専門領域など）を通じてその価値観や嗜好性の把握を試み、そのダイバーシティ（一つの集団やチームにおいてどれだけ個人的属性が分布しているか）が集団のパフォーマンスや内部のコミュニケーションにどのような影響を与えるのかを研究しています。

従来の経営学における研究では、集団やチーム内に存在する分布や相違に関する研究は十分に蓄積されていませんでした。ダイバーシティに関する研究は、分布や相違に注目することで、既存研究では捉えることができなかった側面から経営、そして組織を捉えるという点で面白い（興味深い）と考えています。

4. WEB ページなど

立命館大学研究者学術情報データベース

<http://research-db.ritsumei.ac.jp/Profiles/134/0013344/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

<プロフィール>

2017年明治大学大学院経営学研究科博士後期課程修了（博士（経営学））

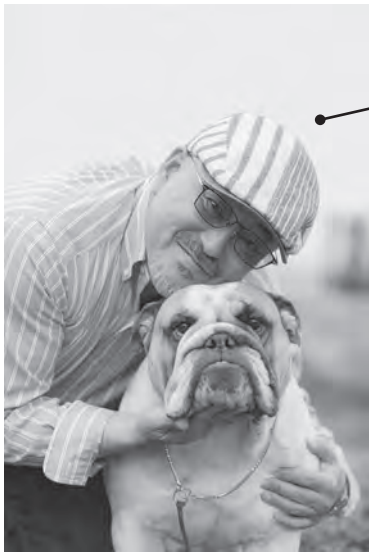
2017年立命館大学経営学部准教授

<所属学会>

日本経営学会、組織学会、産業組織心理学会、経営行動科学学会、Academy of Management

6. 求める院生像

私は大学院を「研究を通じて成長する場所」として捉えています。研究には、自らの興味や関心事を積極的に調べたり、周りの人に質問する主体性が重要です。よって、主体性を意識しつつ活動できる院生が求められます。



種子田 穰

Joe TANEDA

職位 教授
学位 経営学修士 (1991/03 立命館大学)

教員の自己紹介

立命館大学経営学部卒業生です。一人でも多くの学生・院生みなさんが、働きがい、生きがいを持って社会に貢献できる存在に成長してくれることを願い、その実現に努めています。
愛犬のブルドッグと共に、全国のドッグショーを巡っています。

1. 主要な研究テーマ

社会の現状を踏まえたスポーツの使命を前提に、プロスポーツリーグやチームを中心に、特異な事例を取り上げ、ケーススタディーとして、経営学の視点から精緻に、その組織のビジネスモデルを解明する。

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

<著書>

- ・ベイスック会社経理入門（第3版）種子田穰・金森絵里 中央経済社 116-133,134-145,146-160,161-173,174-184,185-195,198-220,221-228 2008/09
- ・アメリカンスポーツビジネス—NFLの経営学— 角川学芸出版 2008/03
- ・史上最も成功したスポーツビジネス 小沢道紀, 杉山大門 毎日新聞社 52-68,70-106,150-158 2002/07

<論文>

- ・プロスポーツにおける顧客創造 種子田穰 ドラッカー学会年報「文明とマネジメント—マネジメントの新領域」11, 165—181 2014/11
- ・顧客の創造 三浦一郎編著 晃洋書店 第9章 2019/3

3. この研究のここが面白い！

経営学の視点からスポーツビジネスを研究

実務に携わったのが管理会計との出会い。本学の経営学部を1983年に卒業、会計事務所勤務を経て1989年母校の大学院へ。1993年に経営学部へに任用。2011年より現職。任用以来、利益管理の観点から国際取引企業に関わる管理会計の諸問題を研究。実際の企業活動を念頭に置きつつ、利益管理という視点から論理的な整理を進めてきました。その後、研究領域は経営学、とりわけスポーツの経営学へと広がり、スポーツ健康科学部の教員として「スポーツビジネス論」「基礎経営学」を担当。企業や団体の協力を得て、ケーススタディを中心に取り組んでいます。優れたケースの典型からは、生きたビジネスの姿を学ぶことができます。実際の企業活動がイメージできることは経営学を学ぶうえではとても重要です。現在、大学院経営学研究科博士課程後期課程で、研究者を目指す院生みなさんの研究指導を担当し、共にプロスポーツのビジネスモデルを中心にスポーツビジネスの研究に努めています。

4. WEB ページなど

<http://research-db.ritsumeai.ac.jp/Profiles/36/0003518/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

<所属学会>

スポーツ産業学会、日本流通学会、日本管理会計学会、会計理論学会、日本会計研究学会、日本スポーツマネジメント学会、ドラッカー学会

6. 求める院生像

常に社会の現状に関心を持ち、正義感をもって、より良い社会の実現と人々の幸せに貢献することを目指す、無限の可能性を持った未来の研究者。



徳田 昭雄

Akio TOKUDA

職位 教授

学位 博士（経営学、立命館大学）

教員の自己紹介

千葉生まれ茨城育ち、京都 在住。

2000 年 経営学部赴任（英国レディング大学、独国アーヘン工科大学、仏国 EHESS での在外研究を経て、現職。

専門は、経営戦略論、国際経営論。

趣味は食べ&呑み歩き、球技観戦、異業種交流など。

1. 主要な研究テーマ

- 1) EU の R&I 政策
- 2) オープン・イノベーション戦略

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

主な著書：

徳田昭雄・立本博文・小川紘一（2011）『オープンイノベーション・システム』晃洋書房

徳田昭雄（2000）『グローバル企業の戦略的提携』（ミネルヴァ書房）

主な論文：

“How to make sure the system level conformity assessment” in G.Auvray, J.Bocquet, E.Bonjour, D.Krob, eds. Complex System Design & Management, Springer Verlag, 95-106, 2015.

“International Framework for Collaboration between European and Japanese Standard Consortia” in Kai. Jacobs, eds. Information and Communication Technology Standardization for E-Business Sectors, IDEA Group Publishing, 157-170, 2009.

3. この研究のここが面白い！

現在の研究対象は、欧州連合（EU）のオープン・イノベーション政策です。オープン・イノベーション政策の立案を担う欧州委員会の政策構想力やその背景にある設計思想、政策実行のための産官学の連携のあり方やガバナンスメカニズムの分析に取り組んでいます。日欧の産業技術政策に関わる官界や産業界の方々とともに研究を進めるところが面白いです。

4. WEB ページなど

私の研究に関しては、下記の大学ホームページをご覧ください↓

<http://research-db.ritsumeai.ac.jp/Profiles/38/0003748/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

職歴：

2013/09-2014/09 EHESS（国立社会科学高等研究院）客員研究員

2012/04-2013/08 立命館大学 経営学部 教授

2007/09-2009/03 RWTH Aachen Informatik, 博士研究員（アーヘン工科大学 情報学研究科）

2004/10-2007/08 立命館大学 経営学部 准教授

2003/09-2004/09 Reading University, School of Economics（レディング大学 経済学研究科）客員研究員

2000/04-2003/08 立命館大学 経営学部 助教授

委員歴：

2016/01- 「研究・イノベーション学会」 編集委員

2014/10- 「内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）」 推進専門委員

2013/08- 「多国籍企業学会」 編集委員長（2015.8-）、学会賞委員（2013-15）

2011/04- 「新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）」 技術委員

2006/11- 「国際ビジネス研究学会」 学会賞委員（2013-）、編集委員（2007-2012）

6. 求める院生像

先人に学びつつ、独創的な切り口で新しい分野を切り拓いていくことができる人。



中村 志保

Shiho NAKAMURA

職位 准教授

学位 博士（経営学、神戸大学）

教員の自己紹介

大学時代、アメリカに留学しました。大学卒業後は、神戸大学経営学研究科で学位を取得し、高松と福岡の大学に3年間ずつ在職し、2010年4月より本学経営学部へ赴任しました。2014年4月から2015年3月までカナダのビクトリア大学にて客員研究員として在外研究を行いました。

1. 主要な研究テーマ

日本企業の国際人的資源管理

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

主要研究業績

中村志保・原田順子「グローバル人材の育成」原田順子・平野光俊編著（2018）『放送大学大学院人的資源管理』放送大学教育振興会、246-262頁、所収。

科学研究費採択テーマ

日本企業のグローバル人材に関する経時的研究：海外戦略と人的資源管理施策の視点から

3. この研究のここが面白い！

国際人的資源管理って何ですか？とよく学生に尋ねられます。ヨドバシなど家電量販店へ行くと様々な商品が並んでいます。パナソニック、シャープ、キヤノン、富士通など実際に商品を手にとってみると、Made in Chinaなどの表示があります。なぜ、日本メーカーは中国で生産しているのでしょうか？ヒトを中心に考えてみると海外でモノを生産したり、サービスを提供する日本企業には日本国籍の従業員、現地国籍の従業員など国籍の異なる人たちが存在します。日本から中国へ、また、中国子会社の社員がシンガポールへ出向することもあるかもしれません。日本企業でありながら、多国籍の従業員をマネジメントするとはどういうことなのでしょうか？評価は？報酬は？日本式でしょうか？欧米式でしょうか？それとも、中国式？海外派遣者のキャリアはどのように形成されるのでしょうか？海外では離職率が日本に比べて高いと言われますが、どうやって優秀な従業員たちを雇用し続けることが出来るのでしょうか？このように国境を越えたヒトのマネジメントについて学ぶことが国際人的資源管理です。

近年、日本企業の海外進出はますます拡大化しています。日本企業はグローバル人材をどう捉えるのか、また彼らをどう育成していくのかなど新たな課題があります。

4. WEB ページなど

<http://research-db.ritsumeit.ac.jp/Profiles/77/0007621/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

日本労務学会会員

日本経営学会会員

国際ビジネス研究学会会員

Academy of International Business 会員

Academy of Japanese Business Studies 会員

6. 求める院生像

読むこと、考えることが好きな院生を求めています。研究では事例研究やデータ分析も重要ですが、修士論文ではまず、文献レビューを軸とした論文を作成して頂きます。



中村 真悟
Shingo NAKAMURA

職位 准教授
学位 博士（商学、大阪市立大学）

教員の自己紹介

学部では「技術経営論」、「産業技術論」といった技術経営に関わる講義を担当しております。私の考える技術経営論は、国・産業・企業の技術競争力の実態を社会科学的観点から明らかにするというものです。

技術の歴史の理解には、「モノ」を五感で体験するのが重要だと考えており、博物館・工場見学、映画鑑賞、レプリカ収集、体験学習への参加などを趣味にしております。

1. 主要な研究テーマ

- 1) 日本の化学産業の技術競争力に関する研究
- 2) 化学産業における技術と労働に関する研究
- 3) リサイクル産業の技術・経営に関する研究

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

【主要著書】

- 『アスベスト公害の技術論』ミネルヴァ書房、2016年（分筆担当）
『科学と技術の歴史』ムイスリ出版、2015年（共著者）

【主要論文】

- 「石油化学工業における多品種大量生産プロセスの成立と展開：ポリプロピレン生産プロセスを事例に」『社会システム研究』28号。
「石油化学工業における市場ニーズ対応型生産プロセスの成立：プロセス制御技術の高度化の観点から」『立命館経営学』52巻6号。
「循環型素材産業における生産プロセス成立の技術的・経済的条件：汎用プラスチックの高品質リサイクルを事例に」『立命館経営学』52巻2・3号。

3. この研究のここが面白い！

私自身の研究はプラスチック、リサイクルプラスチックを対象に、各国の産業技術競争力の特質を技術的基盤の形成過程から明らかにするというものです。特定の国・産業・企業の競争力の基盤的条件としての技術（特に製造技術）は、歴史的・社会的諸条件と国・産業・企業の主体的条件の相互作用の結果として形成されていきます。たとえば現在のIoT、インダストリー4.0といった「モノとサービスの新たな結合様式の提案」、「ものづくり」のIT化動向をあきらかにするには、情報処理・通信技術の高度化という新たな技術的条件と、各国・各種産業・企業の技術的基盤とが具体的にどのように結びつくのか、それによって既存の技術的基盤（特に技術と労働）がどのように変容するのか、を分析することが重要です。

4. WEB ページなど

学部の教員紹介にて業績等の詳細があります。
<http://research-db.ritsumeai.ac.jp/Profiles/118/0011746/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

立命館大学経済学部卒業
大阪市立大学大学経営学研究科後期博士課程修了。
立命館大学、大阪産業大学、阪南大学非常勤
立命館大学経営学部准教授（現在に至る）

6. 求める院生像

産業、企業の技術競争力について、文献と実態調査を通じて深めたいという院生を望みます。なお研究対象は化学産業、リサイクル産業でなければダメということはありません。



西谷 順平

Jumpei NISHITANI

職位 教授

学位 博士（経済学、立命館大学）

教員の自己紹介

専門分野は、財務会計です。研究については、2016年3月に発刊した書籍『保守主義のジレンマ-会計基礎概念の内部化』中央経済社などを参照下さい（図書館にあります）。

授業科目としては、学部「財務会計論」、大学院「財務会計」を担当しています。留学プログラムの担当をしたり、「簿記入門Ⅰ、Ⅱ」、「会計キャリアⅠ～Ⅴ」といった簿記科目の科目責任者もやっていたりします。ゼミでは、USCPAになるための勉強を教えています。毎年夏には、北京の対外経済貿易大学で2単位分の夏季集中講義を行っています。

会計制度設計および公的組織運営の専門家として、地方自治体の上下水道料金算定や水道事業企業体運営の委員、中央省庁（防衛装備庁）の審議会や有識者委員会で委員をやっているほか、小売業「ドン・キホーテ」を擁する株式会社パン・パシフィック・インターナショナル・ホールディングス（PPIH）の社外取締役を務めています。

1. 主要な研究テーマ

- 1) 最適会計基準設定の研究・・・会計ルールの合理性について、数理的に分析しています。
- 2) 会計保守主義の理論研究・・・財務会計の保守性について、歴史や経済学を使って分析しています。

2. 主要業績

- ・書籍・論文＝西谷順平『保守主義のジレンマ-会計基礎概念の内部化』中央経済社、2016年3月。など
- ・科研費＝2009～2010年度「保守主義のモデル分析および実証研究」（若手研究B）
2011～2013年度「負債比率、成長機会と保守主義についてのモデル分析」（若手研究B）
2014～2017年度「条件付き保守主義と無条件保守主義のモデル分析」（基礎研究C）

3. この研究のここが面白い！

- ・数理的分析によって、直感を裏切る分析結果を導き出せたときなどは、興奮してゾクゾクします。
- ・保守主義は世界的に研究されている会計学の基本テーマでもあるので、国際学会でも有名な研究者と交流したり議論できたりするのはとても楽しいです。
- ・保守主義の議論を深めることは、財務会計の本質に近づくことに等しく、その知識を生かしてどんなテーマにも対応できるようにっていくことに自分自身の成長を感じられ手応えがあります。

4. WEB ページなど

- ・さらに詳しい情報は、大学の教員紹介公式ページを参照して下さい。
<http://research-db.ritsumei.ac.jp/Profiles/29/0002894/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

東京大学経済学部 卒業。
東京大学大学院経済学研究科 修士課程修了。
東京大学大学院経済学研究科 博士課程単位取得退学。
青森公立大学経営経済学部 専任講師を経て助教授。
プリティッシュコロロンビア大学 客員研究員。
立命館大学経営学部 准（助）教授を経て教授（現在に至る）。

所属学会・・・アメリカ会計学会、カナダ会計学会、ヨーロッパ会計学会、日本会計研究学会など

6. 求める院生像

- ・会計が好きな人。テーマについては相談しながら楽しく研究しましょう。
- ・テーマについては、財務会計に関連するものなら何でも良いです。
- ・社会のいたるところに会計のテーマが隠れています。例えば、ポイントやマイルについての会計について研究した院生もいますし、健康会計について企業インタビュー調査をした院生もいました。他にも、研究開発費やのれん会計についての会計制度を国際比較したり、学校法人や社会福祉法人会計の新しい課題をインタビュー調査したり、企業会計数値を使ったGDP成長率の予測をしたりと様々です。



播磨谷 浩三

Kozo HARIMAYA

職位 教授

学位 博士（経済学、神戸大学）

教員の自己紹介

専門の研究領域は、金融機関の経営特性に関する財務データを用いた実証分析です。特に、最近では、地域経済の活性化に果たす金融機関の役割について、自身の関わりが深い北海道などの特定地域を題材として検証を進めています。私は、経済学部を卒業後、5年間の銀行員を経て大学院に進学しました。現在、学部では金融関連の科目を担当していますが、大学院では実証分析の基礎となる計量経済学の入門レベルの理論を教えています。
E-mail: harimaya@fc.ritsumei.ac.jp

1. 主要な研究テーマ

- 1) 金融機関の生産、費用構造や、金融産業の市場構造の特性に関する実証研究。
- 2) 規制産業における規制緩和の影響や、産業政策の効果に関する実証研究。

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

【主要研究業績】

- K. Harimaya (2018) "The effects of consolidation on bank cost savings: Evidence from Japanese regional banks." *Japan and the World Economy* (forthcoming)
- K. Harimaya, N. Yamori, and K. Tomimura (2017) "The efficiency of Japanese financial cooperatives: An application of parametric distance functions." *Journal of Economics and Business* 94, pp. 43-53.
- K. Kondo and K. Harimaya (2014) "Why do Japanese non-local regional banks enter other prefectures under the region-based relationship banking policy?" *Journal of Industry, Competition and Trade* 14, pp. 473-485.
- H. Montgomery, K. Harimaya and Y. Takahashi (2014) "Too big to succeed? Banking sector consolidation and efficiency." *Journal of International Financial Markets, Institutions & Money* 32, pp. 86-106.
- J. Sun, K. Harimaya, and N. Yamori (2013) "Regional economic development, strategic investors, and efficiency of Chinese city commercial banks." *Journal of Banking & Finance* 37, pp. 1602-1611.

3. この研究のここが面白い！

近年、フィンテックや仮想通貨などの新しい金融サービスや金融技術に多くの関心が寄せられていますが、金融機関がどのような経営を行い、どのような課題を抱えているのかについては必ずしも明らかにされていません。私の主要な研究課題は、命の次に大切なお金を取り扱う金融機関の経営特性について、実証的に明らかにすることです。規制緩和の効果や、合併や再編がどのような影響をもたらすのかなど、金融産業の将来像を考えるうえでもとても重要な研究領域だと考えています。

また、ファイナンスのイメージが強い研究領域ではありますが、フィンテックなどの新しい金融サービスをどのように活用するのか、経営戦略やマーケティングの観点からも検証の余地が数多く残されている研究対象です。

4. WEB ページなど

立命館大学研究者学術情報データベース

<http://research-db.ritsumei.ac.jp/Profiles/78/0007781/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

- | | |
|------------------|-----------------------------|
| 1992/03 | 関西大学 経済学部 卒業 |
| 1992/04 -1997/03 | 中央信託銀行株式会社（現三井住友信託銀行株式会社）勤務 |
| 1999/03 | 関西学院大学大学院 経済学研究科 博士課程前期課程修了 |
| 2002/03 | 神戸大学大学院 経済学研究科 博士課程後期課程修了 |
| 2002/04 -2010/03 | 札幌学院大学経済学部勤務 |
| 2010/04 | 立命館大学 経営学部（現在に至る） |

所属学会：日本経済学会、日本金融学会、日本経済政策学会、生活経済学会

6. 求める院生像

研究課題に対してひたむきに、謙虚に取り組む熱意を持続することができる学生。



堀井 悟志

Satoshi HORII

職位 教授

学位 博士(経済学、京都大学)

教員の自己紹介

京都大学経済学部経済学科卒業

京都大学大学院経済学研究科組織経営分析専攻修士課程修了

京都大学大学院経済学研究科組織経営分析専攻博士後期課程学修認定退学

1. 主要な研究テーマ

日本企業のマネジメント・コントロール会計の理論化

【キーワード】 アクション・リサーチ、グローバル管理会計、原価計算制度改革、予算管理

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など

【主要研究業績】『戦略経営における予算管理』（中央経済社、2015年）、「海外子会社に対する会計コントロールの影響に関する経験的研究：予算管理と管理会計リテラシーの観点から」（『原価計算研究』2015年）など。

【科研費採択テーマ】臨牀的知識に基づくマネジメント・コントロール会計の理論化：アクションリサーチ

【受賞歴】日本原価計算研究学会賞（論文賞）、日本管理会計学会賞（奨励賞）、日本原価計算研究学会賞（文献賞）、New Zealand Management Accounting Conference Best Paper Award (won with Chris Akroyd and Norio Sawabe)

3. この研究のここが面白い！

現代の環境の不確実性、多品種少量生産／機械化といった状況における日本企業のマネジメント・コントロール会計（管理会計）について、実務とのかかわりをもちながら、主としてアクション・リサーチや、ケーススタディ研究に基づいて研究を行っています。特に、原価計算制度改革に基づく収益性計算改革、グローバル管理会計に着目しています。

管理会計という企業経営の中心的な管理制度を対象とし、アクション・リサーチとして実務に関与することで、企業経営に関する学術・実務の双方への貢献を目指しています。

4. WEB ページなど

<http://research-db.ritsumei.ac.jp/Profiles/49/0004821/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

愛知産業大学専任講師、立命館大学准教授を経て、現職。

その間、ニューサウスウェールズ大学（オーストラリア）客員研究員（2013年4月 - 2014年3月）。

日本会計研究学会、日本管理会計学会、日本原価計算研究学会、日本経営学会、ヨーロッパ会計学会、イギリス会計ファイナンス学会会員。

6. 求める院生像

企業の管理制度に強い関心を持ち、先行研究と根気強く向き合える学生を求めます。



松浦 総一

Soichi MATSUURA

職位 准教授

学位 博士（経営学、神戸大学）

教員の自己紹介

神戸大学で博士号を取得した後に立命館大学に就職してもう10年が経ちましたが、経営学部の会計教員で唯一の准教授の（自称）若手教員です。大学院ゼミは、英語論文の読解やコンピューターを用いたデータ解析の結果を報告、といった演習を行います。好きな言語はRです。論文はLaTeXで書いてます。好きなテキストエディタはSublime Text2です。MacもWindowsも使ってます。

1. 主要な研究テーマ

- 1) 利益マネジメントの実証研究
- 2) 租税回避の実証研究

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

Matsuura (2019) "Does Brand Equity constraint Tax Avoidance: Evidence from Japan. ICBEIT 2019 Proceeding Paper.

湯下・松浦 (2019) 「企業統治と財務報告の質に関する実証研究のレビュー」立命館経営学、57 (6)、129-148 頁

松浦 (2015) 「利益マネジメント手段の選択とそのコスト」立命館経営学、54 (3)、75-90 頁

松浦 (2015) 「租税回避とその決定要因」『企業会計』2015 年 8 月号

3. この研究のここが面白い！

会計情報から企業や経営者の行動パターンを予測し、理論を構築し、その理論を使って将来を予測することを目的とした実証研究を行っています。特に、企業行動として利益マネジメントや租税回避行動に興味があり、公表された財務データを用いて統計分析を行い、様々な仮説を検証することで、経営者がなぜそのような行動をとるのか、またその行動をとった結果、どのような経済的帰結が生み出されているのか、を明らかにし、複雑なビジネスの背後にある一筋の本質を見つこうとしています。

専門は会計ですが、実証会計研究では他に、ファイナンスや計量経済学、ゲーム理論、契約理論といった様々な知識が要求されるため、いわゆる簿記や会計基準といったルールを研究する会計研究とは大きく異なる特徴を持っています。統計学という武器を使って、複雑な会計実務の背後にある経営者の行動原理を分析してみましょう。

4. WEB ページなど

松浦の個人ウェブサイト

<http://so-ichi.com/>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

神戸大学経営学部卒業

神戸大学大学院経営学研究科修士（経営学）立命館大学経営学部准教授（現職）

The University of Washington, Foster School of Business に客員研究員として留学

関西大学会計大学院・甲南大学で非常勤講師

日本ディスクロージャー学会 Associate Fellow

6. 求める院生像

1日8時間の勉強・研究することができ、英語の論文を読む努力ができ、コンピューターを用いたデータ分析を楽しむことができる、英語・統計学・プログラミングに強くなりたい大学院生



三谷 英貴

Hidetaka MITANI

職位 教授

学位 博士（経済学、京都大学）

教員の自己紹介

大学院を卒業後、金融庁に研究官として採用されました。その後、2010年4月から経営学部に着任致しました。今まで、6～7名ほどの修士課程の院生を受け持ちました。修了生は銀行、証券や資産運用会社など全員が就職しています。また、博士課程の院生を受け持っており、現在、広島で先生をしています。

1. 主要な研究テーマ

資本市場とコーポレート・ファイナンスとの間に存在する動態関係の実証的解明

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

(1) “Capital structure and competitive position in product market”

International Review of Economics and Finance (29) 358-371

(2) 「コーポレート・ガバナンスと利益調整に関する実証分析」

FSA リサーチレビュー (16) 12-38

3. この研究のここが面白い！

「資本市場とコーポレート・ファイナンス」という枠組みの中にはたくさんの研究テーマがありますが、数あるテーマの中でも、私は、企業の資本構成というテーマに関心があります。企業の資本構成に関する研究は古くからありますが、そのメカニズムをうまく説明できる決定的な理論はいまだに存在していない状況です。言い換えると、このテーマは学問上の発展の可能性を秘めており、いわば古くて新しいテーマと言えるわけです。私は、そのように古くて新しい研究テーマを通して、資本市場とコーポレート・ファイナンスとの間の動態関係を実証的側面から明らかにするべく、隣接する諸領域（産業組織論・会計学・経営戦略論など）にも視点を広げながら研究を行なっております。

研究には時間とエネルギーがかかりますが、その成果の全てが日の目を浴びるわけではありません。野球に例えて言えば、私の場合、打率1割程度といった感じでしょうか…。だから、ヒットを打つことができれば嬉しいし、逆に、成果が思うように出ないからこそ面白いのだと思います…と自分に言い聞かせて慰めています（笑）。

4. WEB ページなど

立命館大学研究者学術情報データベース

<http://research-db.ritsumeit.ac.jp/Profiles/76/0007541/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

2003年3月：関西学院大学 商学部卒業

2010年1月：京都大学大学院 経済学研究科 修了

2009年9月：金融庁金融研究センター研究官 拝命（2010年3月まで）

2010年4月：立命館大学 経営学部 准教授着任後、現在に至る。

6. 求める院生像

修士課程の2年間は長いようで短いです。就職活動や修士論文の執筆など、何事にも一所懸命取り組むことのできる院生を求めます。修士論文では、財務データに関する実証分析を行うことになります。数字の扱いが苦手でない院生を求めます。

宮田 幸子

Sachiko MIYATA

職位 准教授
学位 博士（学術、東京大学）

教員の自己紹介

出身は関西ですが、大学院から東京でしばらく大学院・研究員生活を送った後、アジア、アメリカ、北アフリカなどで勤務し、途上国の貧困分布、格差状況、家計の経済分析やローンの事前調査などに関する仕事をしました。様々な国に住み、多様な国の人と仕事をしたことから、少し変わった視点でものの見方をするかもしれません。

1. 主要な研究テーマ

- 1) 個人・家計の意思決定、投資決定などに関する実証研究（主にアジアの家計・企業データを用いて）
- 2) スキルミスマッチ、雇用形態、移住などによる個人の教育や賃金の比較、政策の影響評価など。

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

研究業績：

Miyata S. and T. Akita 2017 “Estimating Returns to Education in Indonesia: Accounting for Selection” Conference Proceedings of International Conference on Applied Economics and Policy (ICAEP), Indonesia.

Miyata, S. and Yamada 2016 “Do Female Gender Role Attitudes Affect Labour Market Participation in Egypt?” Journal of Development Studies. 他。

科学研究費採択テーマ：

- 「インドネシアとフィリピンの都市化、中高等教育拡充と世帯間消費支出格差の分析」
- “Does compulsory schooling law benefit the populace? Evidence from Indonesia and Sri Lanka”

3. この研究のここが面白い！

・日常の人々の行動や素朴な疑問を研究対象にできること

人や家族、企業の様々な行動が研究対象になり得るので多様なテーマから選択できます。個人や組織の特徴を含んだビッグデータを使って、人々・企業の行動と経済状況やビジネスとの関連についてデータ分析します。例えば、人が教育にどれ程投資したか、あるいは学校に長く通ったことによって仕事や収入に関係があるかを分析します。

・フィールド調査やデータ分析から思いがけない事実を発見したとき

人の行動は、統計で説明できない部分も多々ありますが、その中で当初の仮説と異なる見解を得たときや、フィールド調査を通じて現地ならではの発見をしたときに面白いと思います。人々や家計の状況をデータ分析等のエビデンスに基づいて議論するという点で、社会科学・経営・経済学などの分野の中でも人々の心理や行動を対象にしているという点でアートの部分とデータ分析によるサイエンスの部分とを両方併せ持つ分野ともいえるでしょうか。

4. WEB ページなど

私の研究に関しては、下記の個人公式ホームページをご覧ください
<http://research-db.ritsumeai.ac.jp/Profiles/125/0012494/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

関西学院大学 経済学部卒業

東京大学院 総合文化研究科 国際社会科学専攻 博士修了。

世界銀行職員 エコノミスト・コンサルタント ワシントン DC, U.S.A.

アフリカ開発銀行職員 エコノミスト

立教大学 経営学部、津田塾大学 学芸学部 国際関係学科を経て

立命館大学経営学部 准教授（現在に至る）

6. 求める院生像

成績よりも、誠意と素直さ、ガッツを重視します。日本語、英語読解の基本やデータ分析の基本的な能力は研究を実施する上で必要になります。データ分析に興味がある人歓迎です。

守 政毅

Masaki MORI

職位 教授

学位 博士（経済学、九州大学）



教員の自己紹介

専門分野は国際経営論で、特に香港、東南アジアの華人企業の競争力構築や、華人ネットワークを通じた社会関係資本の形成について研究しています。また、アジア市場をめぐる、日系企業や地場企業の事業展開にも研究関心を持ち、学生の指導に当たっています。また、中国（北京）での留学、香港とカナダ（ビクトリア）で在外研究の経験があり、それが私自身の成長に繋がり、人生を豊かにする原点となったことから、グローバルビジネスの最前線で活躍できる人材育成にも力を入れています。

福岡出身で、趣味は旅行と水泳です。

1. 主要な研究テーマ

- 1) ネットワーク組織が華人企業家のネットワーク形成と社会関係資本の獲得に与える影響の研究
- 2) 東アジアの経済環境における華人企業の戦略構築に関する比較研究

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

主要著書：

『東アジアの地域経済発展と中小企業』 晃洋書房、2016年（分担執筆）

『中国市場ビジネス戦略』 信山社、2012年（共著者）

主要論文：

「ネットワーク組織の活動による企業家ネットワークの形成に関する研究 - 香港中華総商会とシンガポール中華総商会の事例分析をもとに -」『九州経済学会年報』第55号、149-157頁、2017年。

「華人ビジネス団体の近距離・遠距離交流とコネクター・ハブとしての役割 - 香港中華総商会を中心に -」

『九州経済学会年報』第52号、27-37頁、2014年。

“The Competitive Strategy of an Ethnic Chinese Corporate Group under the Hong Kong Economic Development — With Special Emphasis on the Cheung Kong Group —”, *Ritsumeikan International Affairs*, 12, pp.21-38, 2014.

3. この研究のここが面白い！

学部時代に、「アジアではなぜ華人系のビジネスはこれほど活発なのか」という問題意識を持ち、それを明らかにするため大学院に進学し、華人ビジネスに関する多角的研究を行ってきました。

「ネットワーク組織が華人企業家のネットワーク形成と社会関係資本の獲得に与える影響の研究」では、社会ネットワーク論の枠組みを適用し、アジアの中華総商会とその会員（華人企業家）に着目し、ネットワーク組織の社会ネットワーク構築の度合いと組織活動の頻度が、構造的隙間の橋渡しによる企業家ネットワーク形成に与える影響や、ネットワーク組織内の規範や組織活動に対して、企業家の参画・貢献を通じた信頼関係の構築が、社会関係資本の獲得に与える影響について実証研究を進めています。

「東アジアの経済環境における華人企業の戦略構築に関する比較研究」では、経営戦略論の枠組みを適用し、アジアで高いプレゼンスを示してきた華人企業を対象に、各国・地域のマクロ経済環境と各華人企業家が持つ経営資源を活用した環境創造と能力蓄積という視点から捉え直しながら、経営成果がそれら相互作用の結果として経済環境に適応する戦略構築能力から生じると仮定して、各国・地域間と各華人企業間の特徴のクロス比較分析を進めています。

4. WEB ページなど

私の研究に関しては、下記の大学ホームページをご覧ください↓

<http://research-db.ritsumei.ac.jp/Profiles/30/0002958/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

1999年3月 九州大学経済学部卒業

2001年3月 九州大学大学院経済学研究科修士課程修了

2004年3月 九州大学大学院経済学府博士課程後期課程単位取得退学（博士（経済学、九州大学））

2006年4月 立命館大学経営学部助教授、准教授を経て教授（現在に至る）

所属学会：組織学会、国際ビジネス研究学会、多国籍企業学会、中国经济経営学会、九州経済学会

6. 求める院生像

- ① アジアにおける華人系ビジネスに強い関心や問題意識を持ち、深く探求する日々の努力を惜しまない方。
- ② 先行理論を踏まえて論理的な思考を身につけると同時に、資料収集や現地調査を踏まえて論理的にアジアビジネスを説明したり、新たな学術的知見を発見・創造しようという意欲にあふれている方。



森 祐介
Yusuke MORI

職位 准教授
学位 博士（商学、一橋大学）

教員の自己紹介

東京都出身、趣味は映画観賞です。

商学部・商学研究科の出身ですが、応用ミクロ経済理論、特に組織の経済学を専門としています。

1. 主要な研究テーマ

企業の境界（企業が操業に必要なインプットを外注すべきか、内製すべきかの意思決定）の経済分析

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

- ・“A Formal Model of Firm Boundaries and Haggling,” *Economics Letters*, 156 (2017), pp.15-17.
- ・Award of the “Best Paper,” ESNIE2012
- ・第15回 森口賞、大阪大学 社会経済研究所
- ・平成24年度 兼松フェローシップ、神戸大学 経済経営研究所

3. この研究のここが面白い！：企業の境界問題

企業の境界問題は主に垂直的な取引関係における企業統合を分析する研究テーマです。企業統合を促す主要因としてシナジーを思い浮かべる人も多いでしょうが、経済学的分析では不完備契約が鍵となります。

取引を行う際、価格や納期といった条件を契約という形で事前に取りまとめるわけですが、われわれ人間は全能ではないので、契約に何らかの「穴」が残ります（契約内容が曖昧すぎて解釈に幅があるとか、そもそも契約されていない事項があるとか）。すると、買い手と売り手は事後的な再交渉を通じて契約の穴埋めを図ることになりますが、両者の利害が必ずしも一致していない（特に価格について）ため、様々な問題が生じます（再交渉が泥沼化するとか、不利な再交渉の結果を見越して事前の投資を抑えるとか）。

不完備契約の再交渉にまつわる、上記のような問題を上手く解消・緩和する上で、独立企業間で取引すべきか、垂直統合を通じて当該取引を1企業内で行うべきかを考えるのが企業の境界の経済分析なのです。

4. WEB ページなど

個人ホームページ：

<https://sites.google.com/site/yusukemori3/>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

一橋大学 商学部 卒業
一橋大学 商学研究科 修士課程 修了
一橋大学 商学研究科 博士課程 単位修得退学
日本学術振興会特別研究員（PD） 東京大学 社会科学研究所
東京国際大学 経済学部 専任講師
立命館大学 経営学部 准教授（現在に至る）

所属学会：日本経済学会、行動経済学会、Econometric Society、European Economic Association

6. 求める院生像

- ・応用ミクロ経済理論の領域で研究を行う学生を主たる指導対象とします。
- ・指導学生には論理を丁寧に追う根気と理論を直観的に理解・説明しようとする姿勢を求めます。



守屋 貴司

Takashi MORIYA

職位 教授

学位 博士（社会学、立命館大学）

教員の自己紹介

関西学院大学・大学院で、経営学、立命館大学大学院社会学研究科で社会学を学び、「企業と社会」という広い視点から企業・経営現象を研究しています。専門は、人的資源管理論（人の働かせ方）、キャリアデザイン論（人の働き方）、地域マネジメント論です。趣味は、映画鑑賞と読書、旅行などです。近年取り組んでいる研究としては、外国人労働問題、女性労働研究、地域マネジメント、タレントマネジメントなどについて取り組んでいます。

1. 主要な研究テーマ

- (1) 日本における中山間地域の活性化に関する地域マネジメントの研究
- (2) 日本の外国人労働者のキャリア開発と人事管理に関する研究
- (3) 日本企業における成果主義に関する研究
- (4) 日本企業のダイバシティマネジメント研究
ー女性・外国人・障がい者・高齢者を中心としてー
- (5) 事業継承研究

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

編著『活躍する女性会社員の国際比較ー役員登用と活性化する経営ー』 ミネルヴァ書房 2016年。
共著『東日本大震災下中小企業再生と雇用問題ー広い社会的支援と阪神大震災との比較の視点からー』
全労済協会、2014年。
編著『日本の外国人留学生・労働者と雇用問題ー労働と人材のグローバル化と企業経営』 晃洋書房
2011年。など多数。

3. 科学研究費採択からみる私の研究遍歴紹介！！

科学研究費基盤研究C「外国人労働者のキャリア開発・人事管理に関する研究」（2009年から2012年）の研究代表者として採択され、2010年（平成23年）に、『日本の外国人留学生・労働者と雇用問題』を晃洋書房より2011年7月に発刊しました。研究代表者として、2011年6月には、労務理論学会全国大会において統一論題において本共同研究の一部の研究報告「日本における文系外国人留学生の就職活動と採用・雇用管理」をおこなうことができた。また、科学研究費基盤研究C「国際比較からの新理論の構築によるダイバシティマネジメントの類型化と人事政策の立案」（2012年から2015年）でも研究代表者として採択され、その共同研究成果を、ミネルヴァ書房より2016年5月、『活躍する女性会社員の国際比較』と題して、出版をしました。現在は、科学研究費基盤研究C「グローバルタレントマネジメントの国際比較による類型化とその新理論の構築」（2016年から2019年）でも研究代表者として採択され、共同研究を国際展開し編著書として『価値創発（EVP）時代の人的資源管理』ミネルヴァ書房を著すことができました。

4. WEB ページなど

守屋貴司公式 ホームページをご覧ください↓
<http://www.bizserver1.com/dr-taka-moriya/>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

関西学院大学 商学部 卒業
関西学院大学大学院 商学研究科 博士課程前期課程 修了
関西学院大学大学院 商学研究科 経営学 博士課程後期課程 中退
立命館大学大学院 社会学研究科 博士課程後期課程 修了

日本経営学会理事 全国ビジネス教育会議理事

6. 求める院生像

積極的かつ自律的に学ぶ姿勢のある院生を求めます！



八重樫 文

Kazaru YAEGASHI

職位 教授

学位

学士（造形学）武蔵野美術大学

修士（学際情報学）東京大学

教員の自己紹介

「デザイン」とは、モノや商品の色・かたちを扱う問題に収まらず、どうやらビジネスに関わるさまざまなシーンで有用な知見を持つようです。

これまで「ビジネスとデザイン」「ビジネスパーソンとデザイナー」「研究と実務」「研究者と実務家」の仲をとりもつ役として「デザインの知」を有効活用しようと、いろいろなシゴトを渡り歩いてきました。未だその知を巡る旅の途中です。

1. 主要な研究テーマ

- 1) デザインマネジメントの実践を通じた理論構築
- 2) デザインマネジメント研究に関する知見の体系的整理

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

著書：『デザインの次に来るもの』クロスメディア・パブリッシング 2017 年、『デザイン・バイ・マネジメント』青山社 2014 年ほか

訳書：『デザイン・ドリブン・イノベーション』クロスメディア・パブリッシング 2016 年

『突破するデザイン』日経 BP 社 2017 年ほか

科研費：基盤研究（C）代表「日本におけるデザイナーのデザイン態度の形成要因に関する実証的研究」（2015 年度～2017 年度）、基盤研究（B）代表「企業のデザイン力を測定するための指標とツールの開発」（2019 年度～2021 年度）

受賞：財団法人日本産業デザイン振興会 2008 年度グッドデザイン賞受賞

そのほか、デザインマネジメントやデザインイノベーションに関する企業（企業コンサル・ICT・映像制作・広告代理店・新聞・ラジオ・住宅メーカー・文具メーカー・製造業等）や地方自治体、イタリア・ミラノ工科大学との共同研究を進めています。

3. この研究のここが面白い！

デザインマネジメント研究は、企業組織におけるデザインのあり方を研究する、経営学とデザイン学を横断する分野です。この2領域を行き来できる人材はまだ少なく、世界でもまだそう多くの研究があるわけではありません。近年では国際的にこの分野の学会や研究会が増え始め、研究が進展してきています。

まだ発展途上の分野だからこそ、自分が関わる価値がある。自分がその世界をつくり、リードしていけるわけです。しかも、まだ海外での研究ばかりで、日本での研究蓄積が十分ではありません。海外と日本をつなぐ、ビジネスとデザインをつなぐ、その立場を自分が切り拓き活躍できる可能性がこの分野では十分にあります。

4. WEB ページなど

私の研究に関しては、下記の個人公式ホームページをご覧ください↓
<http://kazaru.jp/>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

武蔵野美術大学造形学部基礎デザイン学科卒業

東京大学大学院学際情報学府修士課程修了

デザイン事務所勤務、武蔵野美術大学助手、福山大学専任講師、立命館大学准教授を経て、

2014 年より現職

2015 年度・2019 年度ミラノ工科大学 DIG（Dipartimento di Ingegneria Gestionale（経営工学研究所））客員研究員

6. 求める院生像

この分野を専門的に研究できる、また教育を受けられる機関は国内にほとんどありません。新しい学問を自分で切り拓いていく気概あふれる院生を求めています。

「自分が世界を変えられると、本気で信じる人たちこそが、本当に、世界を変えているのだから。（Apple Computer 1997）」



山崎 文徳

Fuminori YAMAZAKI

職位 教授

学位 博士（商学、大阪市立大学）

教員の自己紹介

滋賀県東近江市生まれ。趣味はサッカーです。2012年に赴任し、学部では主に「技術経営論」と「技術革新論」を担当しています。2017年度は航空宇宙産業（ボーイング）やIT産業（アマゾンやマイクロソフトの本社）が集積するアメリカのシアトルで在外研究をしていました。

1. 主要な研究テーマ

- 1) 製造業における技術革新の研究：自動車、家電、素材、食品、飲料、その他の産業
- 2) 原子力産業および航空宇宙産業の研究

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

主要研究業績

『科学と技術のあゆみ』（兵藤友博他共著）、23、24章、2018年刊行予定、ムイスリ出版。

「民間航空機用ジェットエンジンメーカーによる市場競争の構造」『立命館経営学』56巻1号、2017/05。

「民間航空機エンジンメーカーの収益構造とアフターマーケット」『立命館経営学』52巻2/3号、2013/11。

科研費採択テーマ

「日本における産業技術基盤の形成と情報通信技術を通じたその進化」（研究代表者）、2016-18、基盤研究C

3. この研究のここが面白い！

これまでの指導院生の修士論文テーマ

2014年度「中国家電企業の海外進出と開発・生産・販売拠点のネットワーク」

2014年度「エアコン産業の生産システムにおけるフレキシビリティ」

2016年度「清涼飲料水メーカーにおけるペットボトル緑茶飲料の技術開発と無菌充填法」

研究対象となる産業・企業のあゆみをふまえて、製品や生産における特徴を分析し、当該製品や企業の競争力の源泉に迫ります。場合によって数回の企業・工場訪問を行なってもらいます。

修士論文作成のイメージ

2018年度後期：修士論文作成に向けた打合せ（非定期）

2019年度前期：週1回の研究指導、問題意識を深めながら研究対象を設定して資料を収集

2019年度夏季休暇期間：集中して資料収集、9月末に修士論文中間発表会

2019年度後期：10月には修士論文の執筆開始、12月に第1稿を完成・指導に基づいて改訂、1月末に提出

4. WEB ページなど

<http://research-db.ritsumei.ac.jp/Profiles/95/0009462/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

1998年3月 大阪市立大学工学部機械工学科 卒業

2005年4月 立命館大学経営学部非常勤講師

2006年3月 大阪市立大学大学院経営学研究科商学専攻後期博士課程 単位取得退学

2008年3月 博士（商学）大阪市立大学

2012年4月 立命館大学経営学部准教授

2017年4月 アメリカ・シアトルに1年間の在外研究

6. 求める院生像

就職希望の場合：修士論文にしっかり取り組むことは、就職活動を進めるためにも重要なことなので、どちらも重視してください。

博士課程進学希望の場合：何らかの制約（利害関係など）もなく、自分の問題意識に沿って研究できることが研究者を目指す際に最も魅力的なことです。知的発見を楽しみましょう。



吉田 満梨

Mari YOSHIDA

職位 准教授
学位 博士（商学、神戸大学）

教員の自己紹介

京都が好きで、大学進学時に東北の岩手県から関西にやってきました。
趣味と研究は同じことなのですが、実務者の方をはじめ、様々な方と出会ってお話を伺い、それを構造化して考えることが好きです。

1. 主要な研究テーマ

- 1) 新市場形成プロセスの分析
- 2) エフェクチュエーション

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

主要著書（共著）：

『ビジネス三國志』（プレジデント社、2009年）、『マーケティング・リフレーミング』（有斐閣、2012年）、『ケースで学ぶケーススタディ』（同文館出版社、2015年）、『デジタルワークシフト』（産学社、2018年）など。

主要訳書：

『エフェクチュエーション—市場創造の実効理論』（碩学舎、2015年）、『“美”のブランド物語』（碩学舎、2015年）など。

主要論文：

吉田満梨（2009）「製品市場境界構築の動態分析—マーケティング行動の歴史社会プロセス」博士学位取得論文、神戸大学大学院経営学研究科。

吉田満梨（2010）「不確定な環境における市場予測と遂行的実践—株式会社伊藤園飲料化比率を参照点とした市場創造の事例」『マーケティング・ジャーナル』No.155, pp.59-73.

吉田満梨・水越康介（2012）「消費経験論の新展開に向けて—実践的転回についての考察」『流通研究』Vol.14, No.1, pp.17-34.

吉田満梨（2014）「市場育成を通じた価値創造のマネジメント—株式会社生活の木事例を中心に」『一橋ビジネスレビュー』Vol.61, No.4, pp.76-92.

吉田満梨（2018）「新市場創造プロセスにおける不確実性と意思決定」『マーケティング・ジャーナル』Vol.37, No.4, pp.17-32.

3. この研究のここが面白い！

研究テーマとしては、新しい製品市場が生み出されるプロセスの分析が中心で、伝統産業を含む多様な産業を対象としています。企業が自分だけではなく、ユーザーや外部企業を含む、多様なステークホルダーと市場価値を共創していく現実に関心があります。

「エフェクチュエーション」という理論によるイノベーターの支援と、趣味から始まったきもの（和装）市場の分析をライフワークとしています。

4. WEB ページなど

<http://research-db.ritsume.ac.jp/Profiles/74/0007305/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

立命館大学国際関係学部卒業、

神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了（博士商学）、

首都大学東京都市教養学部経営学系助教を経て、2010年より現職。

2014年 University of Otago, Department of Marketing Visiting Scholar

2015年より 経済産業省和装振興協議会委員

所属学会：日本商業学会、組織学会、日本商品学会、日本消費者行動研究学会、日本ベンチャー学会

6. 求める院生像

自分が独自に設定したテーマに対して、真摯に探究する努力を惜しまない院生を求めます。

依田 祐一

Yuichi YODA

職位 准教授

学位 博士（経営学、神戸大学）



教員の自己紹介

NTT、NTT ドコモや民間シンクタンク（情報通信総合研究所）にて、マネージャー等の実務を経験（約 19 年間）。博士（経営学）（神戸大学）。実務と学術の双方で、個人や企業が持つ潜在力の発揮に興味を持っており、一緒に探求したいと考えています

趣味は、学生時代にバックパッカーで始めた旅、読書、野球、楽しく話しながら食事をする事です。好きな言葉は、「自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えよ」、「一緒に楽しくやろう」、「If I try my best and fail, well, I've tried my best.」（Steve Jobs）です。

1. 主要な研究テーマ

- 1) クラウド（クラウド AI を含む）のビジネス・エコシステム形成に係る研究
- 2) 顧客価値を創造するビジネスシステムとそれを支える情報システムのマネジメントに係る研究

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

- ◆ 博士論文をまとめた単著『企業変革における情報システムのマネジメントに関する研究 -IS のフレキシビリティと戦略的拡張性-』（碩学舎、2013 年）にて、公益財団法人電気通信普及財団 第 30 回電気通信普及財団賞テレコム社会科学賞
- ◆ 「クラウドサービスの進展における企業情報システムのソーシングへの影響に係る研究」2016 年～2017 年 3 月、電気通信普及財団、研究代表
- ◆ 「PaaS を活用した情報システムの開発プロセスに係る一考察 -」InfoComReview,63,45-57,2014
- ◆ 「AI を活用したユーザーニーズの探索プロセスにおける「結果」と「理由」に係る一考察 ～Amazon.com と Google をもとに～」立命館経営学,55 (3),105-127,2016

3. この研究のここが面白い！

IT（情報技術）の領域は、日進月歩であり、常に新しさを理解していく好奇心が求められます。ビジネスシステムは、ビジネスモデルに近い概念であり、いわゆる**事業の仕組み**のことです。企業あるいは NPO 等が、社会・顧客に対して、どのような価値を（What）、どのように（How）創造しているかについて、しくみ（スマホやクラウドといった情報技術を活用した情報システムの観点から事業活動を分析します。戦略論、マーケティング論、組織論を横断しながら、事業全体を仕組みに着目して、**総合的に理解していく面白さ**があります。

研究は、経営学の見地から、**事例研究（ケーススタディ）の研究手法**にて取り組みます。担当教員は、IT（情報技術）・情報システムを切り口としたサービス開発・システム開発の実務経験や研究が多いため、サービスの企画や開発、システム開発やコンサルティング等に関連した研究は、実務・学術の両面から比較的アプローチがしやすい領域です。

4. WEB ページなど

私の研究などに関しては、下記の大学公式ホームページをご覧ください↓
<http://research-db.ritsumeit.ac.jp/Profiles/118/0011754/profile.html>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等 略歴

静岡大学教育学部 卒業
静岡大学教育学研究科 修了
日本電信電話株式会社研究開発本部 勤務
神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期課程（社会人 MBA コース）修了
神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程 修了
株式会社 NTT ドコモ国際事業部 担当課長 兼 DOCOMO interTouch Pte Ltd. 取締役
立命館大学経営学部 准教授（現在に至る）
米国スタンフォード大学にて学外研究に従事（2018 年 4 月～2019 年 3 月）
日本マーケティング学会（理事）、経営情報学会、人工知能学会、組織学会等に所属

6. 求める院生像

探求心が強く、IT を駆使するビジネスシステム、ビジネス・エコシステムやプラットフォームビジネスに強い関心を持つ学生



RAUPACH SUMIYA JORG

ラウパッハ・スミヤ ヨーク

職位 教授

学位 博士（経営学、立命館大学）

教員の自己紹介

I was born in Germany. After spending more than 20 years in business in Japan, I joined the College of Business Administration of Ritsumeikan University in 2012. I am teaching classes in international management and am responsible for the subject of "International Industries" which looks at structural changes of global industries. In my research I focus on the energy industry, in particular renewable energy.

1. 主要な研究テーマ

- 1) International Industries
- 2) Energy industry, in particular renewable energy

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

1. 「再生可能エネルギーが地域にもたらす経済効果 - 産業連鎖分析を適用したケーススタディ」、環境科学会誌、01/2018、31巻 / 1、34-42、
2. "Marketing renewable energy in Japan", in: Carsten HERBES/Christian FIEGE (ed.), Marketing Renewable Energy - Concepts, Business Models and Cases, Springer International Publishing, 2017, pp. 375-397
3. ラウパッハ・スミヤ ヨーク / 中山 琢夫 / 諸富 徹、「再生可能エネルギーが日本の地域にもたらす経済効果 - 電源毎の産業連鎖分析を用いた試算モデル」、日本評論社、2015年、125-146項
Between 2015~2017 I took part in a Kaken research project together with Prof. Toru MOROTOMI of Kyoto University which focused on regional economic effects of renewable energy.

3. この研究のここが面白い！

My research is focusing on the energy industry, in particular on renewable energies. Presently, the renewable energy industry is growing rapidly on a global scale, leading to fundamental changes in the global energy industry. Some even refer to this development as the "4th Revolution", following the agricultural revolution, the industrial revolution and the information revolution. Within this context it deserves specific attention that the formally highly concentrated, large-scale energy industry is structurally shifting towards a decentralized system of smaller and medium-sized players. The driving force behind this global trend are very often regional businesses, municipalities and citizen initiatives. My research concerns itself with the structural forces and factors of success in the renewable energy industry that lead to the creation of economic value added and employment in regional economies.

4. WEB ページなど

私の研究に関しては、下記の個人公式ホームページをご覧ください↓
http://research-db.ritsumeik.ac.jp/Profiles/96/0009503/prof_e.html

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

04/01/2012- Professor, College of Business Administration, Ritsumeikan University
09/01/2011-03/31/2012 FOM Hochschule für Oekonomie & Management, Professor
01/01/2011-12/31/2011 SCHOTT Electronic Packaging GmbH, Landshut/Germany; Manager Innovation
12/01/2002-12/31/2010 NEC SCHOTT Components Corporation, President / Representative Director
01/01/2001-11/30/2002 NEC SCHOTT Components Corporation, General Manager Administration
07/01/1999-12/31/2000 Research Fellow, German Institute for Japanese Studies
10/01/1995-06/30/1999 Trumpf Corporation, Representative Director
06/01/1990-04/30/1995 Roland Berger Strategy Consultants, Senior Consultant

6. 求める院生像

Diligence and discipline, self-initiative and curiosity, global mindset, English language capability

SCHLUNZE ROLF DIETER

シュルンツェ・ロルフ

職位 教授

学位 博士（理学、東京大学）



教員の自己紹介

I am the first German geographer who ever got his PhD in Japan. I know well what is needed to challenge as an international student in Japan. Thus, I got interested doing research about the cultural adjustment of individual actors and foreign organizations in Japan. I like to travel and enjoy outdoors in the nature of Japan. I am a fan of montbell and STIHL products; and keep good contact with Japan-based international company leaders. In my spare time I am engaged in *satoyama* activities, mountain biking, hiking and snowshoeing. I love world music (Okano Hiroki) and vocal Jazz (Gregory Porter). I like the work of Fredmund Malik and Karl Popper.

1. 主要な研究テーマ

- 1) Cultural adjustment, preferences and networking of expatriate managers and global entrepreneurs
- 2) Community of Practices (COPs) - Managerial practices in globalizing organizations

2. 主要研究業績・科学研究費採択テーマ・受賞歴など紹介

主な受賞歴

- ・ AJG Best paper award
- ・ EAMSA Best reviewer award

近年の科研費採択テーマ

- ・ American and Chinese managers in Japan: Success practices in cultural adjustment, locational preferences, and networking
- ・ ドイツにおける日本人経営者の立地選好と企業の成功に関する研究
- ・ 在日外国人経営者の立地選好と企業の成功に関する研究
- ・ 外国人経営者の活動空間と意思決定に関する研究

3. この研究のここが面白い！

Cross-cultural management: it is all about practice for intercultural synergy, individual and organizational success! Thus, I do research about managerial practices of individual actors in globalizing organizations from a geographical perspective. My research objective is the analysis of the socio-economic and cognitive spatial behavior of managerial subjects influencing organizational performance through preferences, interactions and perceptions. I am interested in a) real spaces where international business concentrates, b) relational spaces: the way managers and entrepreneurs embed their business in overseas location, and c) topical spaces: to what extent the implementation of corporate governance and/or corporate social responsibility (CSR) is necessary to make international businesses successful.

Facilitating this (a-b-c) framework I planning to do - together with graduate students - research about cross-cultural management and cross-cultural marketing of SMEs manufacturing and selling innovative outdoor clothing. Let's do case study research on Japanese SMEs and their international competitors!

4. WEB ページなど

私の研究に関しては、私の研究グループ SIEM (Space of International Economy and Management) の公式ホームページ <http://www.siemrg.org> をご覧ください

Ji Weiwei (2013) Exploring Cross-Cultural Competence in East Asia, Palgrave Macmillan. Check URL <http://www.palgrave.com/jp/book/9781137363091>

5. プロフィール・所属学会・学会役職等

ベルリン自由大学人文地理研究科経済地理学専攻修士課程修了
東京大学大学院理学系研究科地理学専攻博士後期課程修了
ベルリン自由大学人文地理学部研究員、マンチェスター大学経済地理学部研究員
欧州連合科学技術特別研究員（東京大学社会科学研究所／神戸大学経済経営研究所）
シェフィールド大学日本研究所研究員
追手門学院大学経営学部国際経営学科助教授
立命館大学経営学部教授（現在に至る）

6. 求める院生像

Students who wish to write up in English and perform internationally can expect my outstanding support! I will supervise you to present and publish your research internationally. My success as an excellent supervisor is documented by Ji Weiwei, a former student of mine, who published his PhD thesis "Exploring Cross-Cultural Competence in East Asia" with Palgrave Macmillan, a leading publisher in the field of management science.

立命館大学経営学部事務室

E-mail : gsba-1@st.ritsumei.ac.jp

住所 : 〒 567-8570 大阪府茨木市岩倉町 2-150

TEL : 072-665-2090 FAX : 072-665-2099

経営学研究科ホームページ

<http://www.ritsumei.ac.jp/gsba/>